

令和2年度  
事業報告書

川崎市総合教育センター



## はじめに

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により「予測困難な社会の変化」が一挙に現実となり、学校教育の価値と在り方が問い直された、まさに激動の一年でした。しかし、そのような状況においても、各学校では、学習活動の制限のある中でも創意工夫しながら学習、行事を進め、川崎市の子どもたちの教育を支えていただきました。各学校の教職員の方々のご尽力に改めて深く感謝を申し上げます。

川崎市総合教育センターでは、コロナ禍においても、各学校が新学習指導要領に基づいた教育課程の編成や指導等の実施および準備を推進していけるよう、総務室を中心として、カリキュラムセンター、情報・視聴覚センター、特別支援教育センター、教育相談センターの5センターが、調査・研究、研修、相談等、多岐にわたる事業に取り組んでまいりました。

本報告書は、本センターの一年間の事業内容の概要を次の8つの柱に沿って報告し、その内容を広く知っていただくとともに、次年度以降の業務改善に生かしていくものです。

- ① 組織・事務分掌：組織体系、各種会議、専門員、運営会議、予算等
- ② 調査研究：研究推進の基本的な考え、実践研究、調査・基礎研究、施策研究、研究報告会等
- ③ 教育関係教職員研修：川崎市教員育成指標に沿ったライフステージに応じた必修・希望研修等
- ④ カリキュラムセンター事業：学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動への指導・支援等
- ⑤ 情報・視聴覚センター事業：川崎市立学校における教育の情報推進計画等
- ⑥ 特別支援教育センター事業：第2期川崎市特別支援教育計画の実施、教育相談、就学相談等
- ⑦ 教育相談センター事業：教育相談、ゆうゆう広場、スクールカウンセラー派遣等
- ⑧ 広報及び刊行物：所報、要覧、研究紀要等

令和2年度という転換期の一年を振り返り、令和3年度以降、新しいかわさき教育プランの策定と実施に向けた中長期的な視点に立ち、新しい研究と研修を要とした人材育成と学校支援ができるように、対話から生まれるアイデアを生かしながら、新しい組織・事業づくりに努めてまいりたいと考えております。

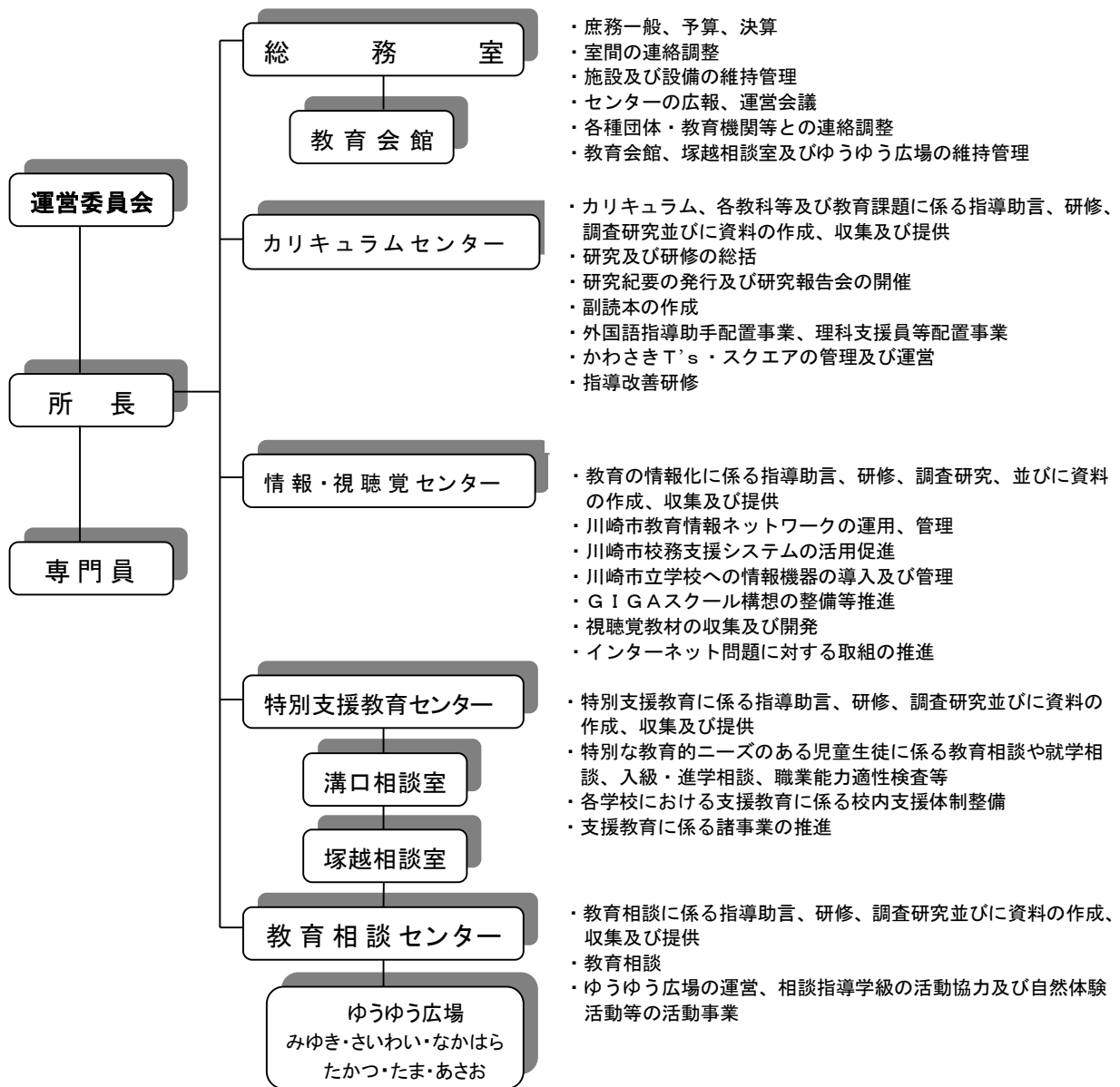
最後になりましたが、当センターの運営・事業展開に当たり、ご指導とご支援を賜りました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

川崎市総合教育センター  
所長 佐藤 公孝

## 目 次

組織・事務分掌 .....	1
所員一覧 .....	2
運営会議委員 .....	3
予 算 .....	4
研究体系図 .....	5
1 調査研究 .....	6
2 教育関係教職員研修 .....	14
3 カリキュラムセンター事業 .....	22
4 情報・視聴覚センター事業 .....	26
5 特別支援教育センター事業 .....	32
6 教育相談センター事業 .....	37
7 広報及び刊行物等 .....	42

# 組織・事務分掌



## 会議

- 管理者会議(月2回)  
センターの管理運営に係る重要事項について検討する。
- 専門職等会議(年間5回)  
業務の円滑化を図るため、担当の枠を越え検討する。
- 学校支援連絡調整会議(年3回)  
学校教育部、教育政策室、生涯学習部及びセンターの連絡調整並びに情報の共有化を図る。
- 所員会(年間3回)  
所員が一堂に会し、センターの諸事項について共通理解を図る。

## 担当者会議(月1回)

- 研究推進担当者会議  
研究の全体計画、教育基本調査の推進、研究会議の調整、推進
- 研修推進担当者会議  
研修の全体計画、調整、推進
- 情報化推進担当者会議  
情報教育に係る課題の調査及び研究の推進  
図書資料の収集、提供についての計画、推進
- 広報担当者会議  
『所報』の発行、『センター通信』等の広報活動の計画、推進

## 指導主事研修(年3回)

- 指導主事の役割についての共通理解や資質・能力の向上を図る。

## 所 員 一 覧

令和2年7月1日現在

所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	所属	職 名	氏 名	
	担当理事・所長	市 川 洋		室長	辰口 直美		室長	宮川 淳子	
総務室	室長	岩城 美由紀	カリキュラムセンター	担当課長	宮嶋 俊哲	特別支援教育センター	指導主事	中村 めぐみ	
	係長	栗須 正則		指導主事	鶴木 朋和		〃	藤田 みどり	
	係長	弘田 喜紀		〃	石井 芳宏		〃	盛光 秀之	
	主任	伊藤 和美		〃	高橋 徹		〃	鹿島 理子★	
	〃	西野 宏		〃	望月 隆		〃	清水 寿紹	
	〃	福原 佑子		〃	鬼頭 洋司		〃	中澤 英之★	
	事務職員	高野 祐也		〃	伊藤 悦子		長期研究員	林 香織	
	主任	坂本 光弘		〃	越 有里				
				〃	伊藤 由佳子		教育相談センター	室長	小林 格
				〃	半田 真規子			指導主事	松田 典英★
		〃	松本 崇	〃	山田 礼子★				
		〃	岡部 啓子	〃	松崎 博晃				
		〃	山中 美奈子	〃	栗原 秀明				
		〃	松浦 信明	長期研究員	谷澤 和美				
		〃	齋藤 宗則	カウンセラー研究員	廣上 倫介				
		〃	門口 知弘						
		〃	吉田 崇						
		〃	野口 裕子						
情報・視聴覚センター	室長	梶木 達也	長期研究員	青木 洋俊					
	担当課長	関口 大紀		高橋 友也					
	課長補佐	野崎 智一		佐藤 一輝					
	係長	佐藤 晃		山本 大					
	主任	野村 晋							
	事務職員	茅根 真帆							
	指導主事	岸本 孝司							
	〃	和田 俊雄							
	〃	草柳 譲治							
	〃	福山 創							
長期研究員	新田 瑞江								
	石橋 純一郎								

★＝塚越相談室勤務

## 専 門 員

氏 名	現 職	専 門 領 域
両角 達男	横浜国立大学教授	算数・数学科教育
工藤 文三	大阪体育大学教授	教育課程
高木 展郎	横浜国立大学名誉教授	学習評価
森本 信也	横浜国立大学名誉教授	教育評価
佐見 由紀子	東京学芸大学准教授	健康教育
太田 洋	東京家政大学教授	英語教育
原 克彦	目白大学教授	情報モラル教育
菅原 雅枝	愛知教育大学准教授	国際教育
野中 陽一	横浜国立大学教授	教育の情報化
永井 徹	首都大学東京教授	教育心理学
霜田 浩信	群馬大学教授	特別支援教育
田中 信市	東京国際大学大学院教授	臨床心理学
芳川 玲子	東海大学教授	教育相談
小林 宏巳	早稲田大学教授	カリキュラム開発

## 教育相談センター専門員

氏 名	現 職	専 門 領 域
古荘 純一	青山学院大学教授	小児精神医学
鶴養 美昭	日本女子大学名誉教授	臨床心理学

## 川崎市総合教育センター運営会議委員

氏 名	現 職	専門領域
館 勇紀	川崎市PTA連絡協議会会長	社会教育
小松 郁夫	流通経済大学教授	学校経営
有元 典文	横浜国立大学教授	学習環境
塚田 庸子	横浜国立大学客員教授	理科教育
赤堀 侃司	東京工業大学名誉教授	情報教育
池田 延行	国土舘大学教授	保健体育
橋本 博子	神奈川県警察本部 少年相談・保護センター川崎方面少年相談員	児童生徒指導
小川 信夫	玉川大学継続学習センター特任講師	人間理解
◎ 関戸 英紀	横浜国立大学教授	特別支援教育
○ 佐藤 公孝	川崎市立小学校長会会長 川崎市立小杉小学校長	小学校教育
相沢 宏明	川崎市立中学校長会会長 川崎市立橘中学校長	中学校教育
荒井 利之	川崎市立高等学校長会会長 川崎市立川崎総合科学高等学校長	高校教育
吉田 宴	川崎市立特別支援学校長会会長 川崎市立中央支援学校長	特別支援教育
嶋田 和明	川崎市教職員組合執行委員長	学校教育

- ◎ 委員長  
○ 副委員長

予 算

単位 千円

科 目	年 度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
		千円	千円	千円
総合教育センター費		1,273,214	1,322,488	1,058,488
教育調査研究費		22,905	23,275	23,826
教職員等研修費		16,481	19,976	20,544
教育相談費		79,307	77,515	73,394
適応教室運営費		75,643	68,449	72,351
教育情報ネットワーク事業費		485,730	554,082	338,287
視聴覚教育費		1,700	1,650	1,734
平和教育推進費		659	770	759
外国語指導助手配置事業費		478,307	423,980	378,184
海外帰国子女等関係費		-	55,154	53,963
理科支援員等配置事業		17,228	16,976	17,241
カリキュラムセンター事業費		429	438	462
総合教育センター運営管理費		84,848	69,781	67,955
教育会館運営管理費		9,977	10,442	9,788
その他経費（教職員等研修費へ統合）		-	-	-
総合教育センター費外		1,492,129	1,451,725	1,349,900
学校教育活動支援事業費		336	353	632
児童生徒・指導相談業務費		98,540	99,244	99,259
教育課程・学習指導に関する事務		28,403	28,428	27,667
情報化教育推進事業費		1,364,828	1,321,581	1,216,851
特別支援教育推進事業費		-	2,090	4,168
人権教育推進事業費		22	29	464
子どもの権利学習等推進事業費		-	-	859



# 川崎市総合教育センター 令和2年度 研究体系図

教育基本法 学校教育法  
中央教育審議会 答申  
小・中・特別支援学校新学習指導要領  
高等学校新学習指導要領  
「育成を目指す資質・能力」の明確化  
第3期教育基本計画

かわさき教育プラン  
基本理念  
夢や希望を抱いて  
生きがいのある人生を送るための礎を築く  
基本目標キーワード  
「自主・自立」「共生・協働」

## 川崎市総合教育センターの研究

### 実践研究

令和2年度 実践研究主題

## 自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力

- 各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究
- 児童生徒の発達への支援に係る研究
- ◎長期研究員と研究員による研究（7）
  - 特別活動：学級活動の一連の学習過程における評価の充実と指導の改善
  - 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導：「問い」をもち、解決に向かって学ぶ児童生徒の育成
  - 校内OJT：授業を改善し続ける姿勢を育成するOJTの研究
  - 高校教育：「主体性」を発揮させる指導と評価の工夫
  - ICT活用：GIGAスクール構想における段階的なICT活用
  - 特別支援教育：特別支援学級における児童生徒の学びにつながる1人1台端末の活用
  - 学校教育相談：学びの中で安心感を生む学級づくり
- ◎指導主事と研究員による研究（4）
  - 生活科・総合的な学習の時間：子どもの没頭を生み出す単元デザインの一考察
  - 外国語教育：「話すこと[やり取り・発表]」において、見通しをもち、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成
  - 道徳：道徳科を要としたつながりのある道徳教育
  - 健康教育：養護教諭が実践する「生活習慣」に関する健康教育
- ◎カウンセラー研究員による研究：カウンセリング・マインドを生かした関係づくり
- 市立学校との教育の情報化推進を目的とした研究：旭町小学校 小杉小学校  
川崎高附属中学校 今井中学校

### 共同研究

- 各研究所等との共同研究
- ◎指定都市教育研究所連盟
- ◎神奈川県教育研究所連盟
  - 研究大会での研究報告（令和2年度は中止）
- ◎関東地区教育研究所連盟
- ◎全国教育研究所連盟
- ◎都道府県指定都市教育センター所長協議会

### 施策研究

- 教育施策等に係る研究
- ◎習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究
- ◎全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究（令和2年度は中止）

### 調査・基礎研究

- 教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究
- ◎各センター指導主事研究
  - カリキュラムセンター
    - ・1人1台端末の活用につなげる各教科等の学びについての基礎的研究
  - 情報・視聴覚センター
    - ・かわさきGIGAスクール構想における情報セキュリティについて
  - 教育相談センター
    - ・不登校児童生徒の抱える背景と支援の実態についての調査・基礎研究
  - 特別支援教育センター
    - ・特別支援教育における教育課程編成について

## 1 総合教育センターにおける研究推進の基本的な考え方

総合教育センターでは設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っている。

現在の総合教育センターは、「研究・研修」の業務と、各教科等や教育課題等に係る各学校に対する指導業務を担っている。指導主事が学校等の要請に応じて学校を訪問し、授業研究や校内研修等において指導や支援に携わりながら、各学校の子どもたちの実態や授業における指導の状況等を直接把握している。

そこで、研究においては、本市の子どもたちや学校の実態等を踏まえたうえでの各教科等に係る指導方法の改善や教員の授業力の向上、児童生徒の発達の支援に係る研究等を実践研究の中心に据えて取り組んでいる（別紙「研究体系図」参照）。

### ◇実践研究

■各教科等に係る指導内容、指導方法、教材・資料等の充実・改善を目的とした研究

■児童生徒の発達の支援に係る研究

○長期研究員と研究員による研究会議

特別活動、習熟の程度に応じたきめ細やかな指導、校内OJT、高校教育

ICT活用、特別支援教育、学校教育相談

○指導主事と研究員による研究会議

生活科・総合的な学習の時間、外国語教育、道徳、健康教育

○カウンセラー研究員による研究

■市立学校との教育の情報化推進を目的とした研究

### ◇調査・基礎研究

■教育活動及び児童生徒の実態に係る調査研究

○指導主事研究 各センターの課題に応じた研究

### ◇施策研究

■教育施策等に係る研究

○習熟の程度に応じたきめ細やかな指導に係る研究

○全国学力・学習状況調査の分析及び活用に係る研究（令和2年度は中止）

### ◇共同研究

■各研究所等との共同研究

○指定都市教育研究所連盟

○神奈川県教育研究所連盟

・研究大会での研究報告（令和2年度は中止）

○関東地区教育研究所連盟

○全国教育研究所連盟

○都道府県指定都市教育センター所長協議会

## ◇実践研究

### 長期研究員・研究員による研究会議

学級活動の一連の学習過程における評価の充実と指導の改善  
—自己を生かし、協働してよりよい学級・学校生活をつくる児童生徒の育成を目指して—

(特別活動研究会議)

本研究会議では、学級活動の評価の充実と指導の改善を図ることで、児童生徒の資質・能力の向上を目指した研究を行った。「発達の段階に即した活動形態別の『目指す児童生徒の姿』一覧」と「指導と評価の一体化 重点化シート」、「児童生徒見取りシート」、「キャリア・パスポート」の効果的な活用を手立てとし、一連の学習過程に基づいた学級活動に取り組んだ。教師がこれらの手立てを活用して児童生徒を多面的・総合的に見取り、フィードバックすることを積み重ねることで、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点での児童生徒の資質・能力の向上につながることが明らかとなった。

<スタッフ> 青木 洋俊 (長期研究員) 田中 潤也 (研究員) 飯野 大輝 (研究員)  
小田 節子 (研究員)

「問い」をもち、解決に向かって学ぶ児童生徒の育成  
—「問い」を大切にした授業づくりを通して—

(習熟の程度に応じた  
きめ細やかな指導研究会議)

本研究では、児童生徒が「問い」をもつことによって、学習を自分事としてとらえ、解決に向かって学ぶようになるのではないかと考え、さらに、学習状況に差がある状況の中でも、「問い」をもとにした授業を展開することによって、児童生徒が「分かる」を実感することにつながるのではないかと考え、「『問い』を大切にした授業づくり」について研究を進め、検証を行った。検証を通して、「問い」をもち、様々な対象に働きかけながら解決に向かって学ぶ児童生徒の姿が見られた。また、検証を行った学級において「授業はよくわかりますか」という質問項目に対して、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増加した。『『問い』を大切にした授業』が「分かる」実感を高める一助となることが明らかとなった。

<スタッフ> 高橋 友也 (長期研究員) 野呂 公人 (研究員) 磯永 真司 (研究員)  
小野 郁絵 (研究員) 梅澤 有美子 (研究員)

授業を改善し続ける姿勢を育成するOJTの研究  
—「求める授業像」を明確にした日常的な関わりを通して—

(校内OJT研究会議)

本研究では、OJTを「日常的な関わりを通じた授業改善に向けた学び合い」に焦点化し研究を行った。教員が「求める授業像」を明確にし、互いの立場を意識しながら日常的に関わり合うことで、OJTが活性化され、教員の「授業を改善し続ける姿勢」につながると仮説を立て、検証を進めた。検証により、OJTの活性化には「授業力自己診断シートの活用」「各学校の既存の取組を生かしたシステムの整理」「自己の成長と新たな改善点への気づきを促すメンターの関わり」の手立てが効果的であると分かった。そして、教員一人一人の「授業を改善し続ける姿勢」の育成を図ることができた。

<スタッフ> 佐藤 一輝 (長期研究員) 山城 祥二 (研究員) 梶 智美 (研究員)  
齊藤 真弓 (研究員)

「主体性」を發揮させる指導と評価の工夫  
—学びを意味付け、つなげることができる生徒の育成—

(高校教育研究会議)

本研究では、教師が生徒の「主体的な学び」を見取るため、学習に関する自己調整の側面を、生徒が学びを自分にとって意味があると考え、次につなげようとしている姿で捉え、粘り強さの側面を、自律性の程度に着目した「有機的統合理論」で可視化した。指導改善の手立てとして、振り返りに焦点を当て、「単元ごとの学習計画」や生徒が各教科の見方・考え方を働かせることができる「課題設定」を設けて検証を行った。生徒の振り返りの記述には、学びをつなげることができていると認められるものが見られ、振り返り自体も生徒の「主体的な学び」を促すということが確認できた。

<スタッフ> 山本 大 (長期研究員) 佐藤 辰徳 (研究員) 荒井 貴文 (研究員)  
津田賀 裕美 (研究員) 森山 麻衣子 (研究員)

GIGA スクール構想における段階的な ICT 活用  
—学びで ICT を使えるようになるための初期段階の指導—

(ICT活用研究会議)

本研究では、GIGA スクール構想により実現される1人1台端末を、学習の中で使えるようになるためには導入初期段階の活用の仕方が重要であると考え、その指導方法を探る実践研究に取り組んだ。半年間継続的に実践し考察した結果、学びで ICT を使えるようにするためには、基礎的な ICT 活用スキル習得のための時間確保が必要であり、それは教科等の中で習得できるものと、教科等外の時間で習得する必要があるものに分類できることが明らかになった。また、児童生徒の実態や ICT の特性を考慮した学習の流れに沿って少しずつ活用の幅を広げていくことなどが効果的であることも明らかになってきた。

<スタッフ> 石橋純一郎 (長期研究員) 小関寛 (研究員) 武野結基 (研究員)  
杉本昌崇 (研究員) 川口優 (研究員)

特別支援学級における児童生徒の学びにつながる1人1台端末の活用  
—個別の指導計画を基にした困難さに応じた活用方法の検討—

(特別支援教育研究会議)

本研究会議では、特別支援学級における1人1台端末の活用について、「困難さに応じて児童生徒が自分に合った方法で学ぶことで、各教科等の目標に迫ることができる」という仮説を設定し、研究を進めた。個別の指導計画と単元計画とを関連付けて児童生徒の困難さを考え、その手立てとしてタブレット端末を活用することとし、授業の計画・実施・評価・改善のPDCAサイクルによる実践で個別最適化した学びへの高まりを目指した。授業の分析から、1人1台端末の活用の要点について①個別の指導計画の活用②困難さに応じた活用③活用場面や必要な支援の明確化④自立活動との関連の4点にまとめた。

<スタッフ> 林 香織 (長期研究員) 巴山 富濟 (研究員) 松野下 洋平 (研究員)  
目黒 翔太 (研究員)

学びの中で安心感を生む学級づくり  
—友達との関わりを通して不登校を未然に防ぐ教育相談的な関わりを探る— (学校教育相談研究会議)

昨年度の研究結果（不登校を未然に防ぐには、児童生徒の「学習のつまずき」「友人関係」の背景にある「不安」に目を向けて支援をすること、教師の「授業力」を向上させること）を受け、表題のように研究を進めた。そして、①教師の細やかで温かくさり気ない対応が安心感の土台を作ること②学級活動で援助要請のしやすい雰囲気や主体的に友達と関わりながら学ぼうとする意欲が形成されること③二人組をもとに児童の実態に合わせて段階的に関わりをもたせることで「体験と感情の共有」を促す主体的な関わりになること④振り返りで意欲を継続させることにより、安心感を高められることがわかった。

<スタッフ> 谷澤 和美（長期研究員） 高橋 教子（研究員） 若月 直子（研究員）  
大槻 隼也（研究員） 加藤 伸吾（研究員）

### ◇カウンセラー研究員による研究

カウンセリング・マインドを生かした関係づくり  
—生徒の安心感を高める学習指導の工夫—

本研究では、「学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図る」こととした学習指導要領に基づいて「授業をベースにした人間関係づくり」をめざし、「カウンセリングの技法」を用いた授業を構想し、実践した。実践を積み重ねる中で、①教師が、「生徒への言葉かけの意図を明確にする」ことや「授業の中で人間関係をつくる」ことへの教師の意識が高まったこと。②カウンセリングの技法を用いた教師の言葉かけが生徒に安心感を与えること。③生徒が教師の姿をモデルとして、他者の考えを受け止める力が向上したことが実感でき、授業づくりの視点を増やすことができた。

<スタッフ> 廣上 倫介（カウンセラー研究員）

### ◇指導主事・研究員による研究会議

子どもの没頭を生み出す単元デザインの一考察  
—オーセンティックな単元に向けた3つの視点—

(生活科・総合的な学習の時間  
指導主事と研究員による研究会議)

本研究会議では、生活科・総合的な学習の時間で育成が望まれる資質・能力を具現化する上で、子どもが没頭するような単元をデザインすることが重要だと考えた。そして、そこに向け「オーセンティックな学習材」「子どもの活動の保障」「見取りを基にした意図的なデザイン」の3点を充実させ、単元を学ぶ子どもたちの様子の変化を追っていった。小学校1年「氷」、小学校2年生「カブトムシ」、小学校6年「黒板アート」を学習材とした学びにおいて、いずれの単元でも、他者と協働しながら没頭して学ぶ子どもの姿を見取ることができ、これらの視点を充実させることの有効性が見られた。

<スタッフ> 石井 芳宏（指導主事） 竹内 亮史（研究員） 高橋 克典（研究員）  
川口 翔平（研究員）

「話すこと[やり取り・発表]」において、  
見通しをもち、主体的に学習に取り組む児童生徒の育成  
～妥当性と信頼性を高めるパフォーマンス評価の工夫～

(外国語指導主事と  
研究員による研究会議)

本研究では、「話すこと[やり取り・発表]」の領域におけるパフォーマンス評価を通して、児童生徒が学習目標到達へ向けて、どのように学習の見通しをもって、主体的に学習に取り組むことができるか、また妥当性・信頼性のあるパフォーマンス評価の在り方について探った。ルーブリックを児童生徒と共有したことで、児童生徒にとって目標が明確となり、見通しをもって学習に取り組む児童生徒の姿が見られた。さらに、振り返りカードで児童生徒の学習状況を把握し、教師が適切なフィードバックを与えたことは、児童生徒が課題をもち、自己調整につなげながら学習に取り組もうとする姿にもつながった。

<スタッフ> 齋藤 宗則 (指導主事) 今野 愛 (研究員) 菊池 哲哉 (研究員)  
大窪 洋次郎 (研究員) 井上 百代 (研究員)

道徳科を要としたつながりのある道徳教育  
～児童生徒のメタ認知に関わる力を生かして～

(道徳科指導主事と  
研究員による研究会議)

本研究会議では、道徳科の学びを他教科等と関連付けながら道徳性を養うという昨年度の取組を生かし、児童生徒に学んだ意義を実感できるように「メタ認知に関わる力」に着目して研究を進めた。つながりのある道徳教育を計画し、自分を客観的に見つめる振り返りを実施することで、自分の生活や行動を振り返りながら、次の活動でその思いや願いを行動にしたり、実現に向けて進む自分を肯定的に捉えたりする姿を見取ることができた。メタ認知を生かすことで、道徳科の学びが効果的になり、教師も児童生徒の実態に合った関わり方ができる道徳教育の役割の重要性が明らかになった。

<スタッフ> 岡部 啓子 (指導主事) 内島 史章 (研究員) 日野 絵理奈 (研究員)  
関 真由美 (研究員) 東江 大介 (研究員)

養護教諭が実践する生活習慣に関する健康教育  
－感染症予防の視点を含んだ生活習慣を考える－

(健康教育指導主事と  
研究員による研究会議)

本研究会議では、保健で学習した内容と関連させながら、自分の生活習慣を振り返ることができるよう「生活マップ」を教材に用いた。生活マップで自分の生活習慣を可視化させ、どこに課題があるのか、課題を解決するためにはどうしたらよいかを他者との交流を通して新たな気づきが生まれることを目指した特別活動の授業を実施した。子どもたちは、自身の生活習慣を振り返り課題を見つけ、改善するための具体的な目標をあげる姿が見られた。また、健康チェックカードの大切さに気付くとともに、毎日の検温が感染症予防につながることを理解し、その後の生活に生かす姿につながった。

<スタッフ> 野口 裕子 (指導主事) 塚越 紀子 (研究員) 原 朋子 (研究員)  
松井 由里子 (研究員) 佐藤 愛 (研究員)

## ◇調査・基礎研究（指導主事研究）

特別支援学級における教育課程の編成について  
—新サポートノートの手引きと活用—

（特別支援教育センター  
指導主事研究）

本研究では本市が従来から特別支援学級で利用しているサポートノート（個別の教育支援計画・個別の指導計画）を新学習指導要領に合わせて改訂し、その利用目的や運用を明確にすることを中心に研究を進めた。記入の手引き試案版を作成して学校現場で活用してもらい、アンケートやフィードバックを得ながら学校現場で活用が進むように改善を重ねた。結果、具体的なサポートノート記入の手引きを発行し、また運用方法は動画を作成してDVDで配布した。学校現場からは「利用方法が明確でわかりやすくなった」という声と、特別支援学級の教育課程編成が改めて難しいという声が上がってきている。今後も継続して調査を行いながら、内容を更新し続ける必要があることが見えた。

<スタッフ> 盛光秀之 中村めぐみ 藤田みどり 鹿島理子 清水寿紹 中澤英之

## 2 研究報告

### （1）川崎市総合教育センター 研究報告会【別紙1】

この研究報告会は、当センターの実践研究及び調査・基礎研究を報告し、研究協議、指導講評を通して研究の成果を市内の学校、社会教育機関に還元するものであるが、令和2年度は、コロナ感染症対策から、研究報告をオンラインコンテンツにまとめ、それを視聴する「報告会週間（令和3年1月19日～26日）」と、報告内容について研究員と意見を交わす「報告分科会（集会形式またはZoom形式 1月27日）」の2段階方式で開催した。長期研究員、指導主事、指導主事と研究員による研究の12分科会と、横浜国立大学教職大学院派遣教諭による研究の1分科会で研究報告を行い、オンラインコンテンツ視聴回数は2590回、報告分科会参加者は288名と、各分科会で熱気あふれる研究報告会となった。この運営方法では特に、懸案であった複数の研究報告を視聴することが可能になり、好評を得た。

### （2）その他の研究発表

- ・「令和2年度神奈川県教育研究所連盟 第67回 教育研究発表大会」は中止

## 3 その他の研究事業

### ◇研究冊子等の作成

川崎市総合教育センター研究紀要 第34号（令和2年度版）  
令和2年度に調査研究した内容の掲載

## 【別紙1】 川崎市総合教育センター研究報告会

研究報告会報告内容

### 【長期研究員（◎）と研究員（○）による研究】

研究会議名	研究主題	発表者	講師
特別活動 研究会議 (集会形式)	学級活動の一連の学習過程における評価の充実と指導の改善 ～自己を生かし、協働してよりよい学級・学校生活をつくる児童生徒の育成を目指して～	◎青木 洋俊 ○田中 潤也 ○飯野 大輝 ○小田 節子	國學院大學人間開発学部 教授 杉田 洋
習熟の程度に応じたきめ細やかな指導研究会議 (集会形式)	「問い」をもち、解決に向かって学ぶ児童生徒の育成 ～「問い」を大切にしたい授業づくりを通して～	◎高橋 友也 ○野呂 公人 ○磯永 真司 ○小野 郁絵 ○梅澤 有美子	日本大学文理学部 教授 山崎 浩二
校内OJT 研究会議 (Zoom形式)	授業を改善し続ける姿勢を育成するOJTの研究 ～「求める授業像」を明確にした日常的な関わりを通して～	◎佐藤 一輝 ○山城 祥二 ○梶 智美 ○齊藤 真弓	国士館大学体育学部 こどもスポーツ教育学科 教授 澤井 陽介
高校教育 研究会議 (Zoom形式)	「主体性」を発揮させる指導と評価の工夫 ～学びを意味付け、つなげることができる生徒の育成～	◎山本 大 ○佐藤 辰徳 ○荒井 貴文 ○津田賀 裕美 ○森山 麻衣子	浦和大学こども学部 客員教授 工藤 文三
ICT活用 研究会議 (集会形式)	GIGA スクール構想における段階的なICT活用 ～学びでICTを使えるようになるための初期段階の指導～	◎石橋 純一郎 ○小関 寛 ○武野 結基 ○杉本 昌崇 ○川口 優	横浜国立大学 大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 (教職大学院) 教授 野中 陽一
特別支援教育研究会議 (集会形式)	特別支援学級における児童生徒の学びにつながる1人1台端末の活用 ～個別の指導計画を基にした困難さに応じた活用方法の検討～	◎林 香織 ○巴山 富濟 ○松野下 洋平 ○目黒 翔太	国立特別支援教育総合研究所 研修事業部 主任研究員 青木 高光
学校教育相談 研究会議 (集会形式)	学びの中における友達との関わりを通して安心感を生む学級づくり ～安心感を高め不登校を未然に防ぐ教育相談的な関わりを探る～	◎谷澤 和美 ○高橋 教子 ○若月 直子 ○大槻 隼也 ○加藤 伸吾	東海大学文化社会学部 教授 芳川 玲子

### 【指導主事研究】

研究名	研究主題	発表者
特別支援教育センター 指導主事研究 (Zoom形式)	特別支援学級における教育課程編成について ～新サポートノートの手引きと活用～	指導主事 盛光 秀之

### 【指導主事（◎）と研究員（○）による研究】

研究会議名	研究主題	発表者
生活科・総合的な学習の 時間研究会議 (Zoom形式)	子どもの没頭を生み出す単元デザインの一考察～ オーセンティックな単元に向けた3つの視点～	◎石井 芳宏 ○川口 翔平 ○高橋 克典 ○竹内 亮史
外国語教育研究会議 (集会形式)	自律的な学びを促すパフォーマンス評価 ～妥当性と信頼性を高める評価の工夫～	◎齋藤 宗則 ○大窪 洋次郎 ○今野 愛 ○井上 百代 ○菊池 哲哉



道徳研究会議 (Zoom形式)	道徳科を要としたつながりのある道徳教育 ～児童生徒のメタ認知に関わる力を生かして～	◎岡部 啓子 ○内島 史章 ○日野 絵理奈 ○関 真由美 ○東江 大介
健康教育研究会議 (集会形式)	養護教諭が実践する「生活習慣」に関する健康教育 －感染症予防の視点を含んだ生活習慣を考える－	◎野口 裕子 ○原 朋子 ○塚越 紀子 ○佐藤 愛 ○松井 由里子

【横浜国大 教職大学院派遣教諭による報告】

研究名	研究主題	発表者
横浜国立大学 教職大学院派遣教諭に よる研究報告 (集会形式)	R - PDCA サイクルの視点を取り入れた校内研究の 在り方 ～授業改善につなげるための方策として～	令和元年度横浜国立大学 教職大学院派遣教諭 西中原中学校 齊藤 真弓

## 2 教育関係教職員研修

### 1 必修研修

研修形態：★＝集合型研修 ◆＝オンライン型研修 ○＝書面開催 ▲＝中止 △＝中止だが資料送付

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
801	新規採用教員研修	高橋	<p>■ 川崎市の教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、教職全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 研修オリエンテーション・メンタルヘルス研修○                  (2) 情報教育、情報機器の活用法、情報モラル・指導主事○（総合教育センター）                  (3) 児童・生徒指導、学級経営について・芹澤 成司○（総合教育センター元所長）                  (4) 安全指導について 救急法の講義演習、心肺蘇生法・日本赤十字社◆                  (5) 学習指導についての講義演習・指導主事（総合教育センター）◆                  (6) 学習指導 理科指導における講義演習[小]教科別指導[中・高・特]・指導主事（総合教育センター）○★                  (7)(8) 人権 大野恵美（教育政策室） キャリア 安斎陽子（教育政策室）★                  (9) 特別支援教育の現状と理解について・指導主事（総合教育センター）◆                  (10) 教育相談について（総合教育センター）◆                  (11) 児童生徒指導、学級経営について・指導主事（各区教育担当）★                  (12)(13) 授業力向上 班別研修 指導主事（総合教育センター）★                  (14) 班別授業（書面開催）○                  (15) 講話 研修報告 小田嶋 満（教育長）★                  (16)～(19)[小]授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、外国語活動、総合的な学習の時間のうち4回の授業参観と研究協議[中・高・特]示範授業参観 授業研究会参加、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間のうち1回の授業参観と研究協議・指導主事（総合教育センター）◆★</p>	新規採用教員	勤務校外研修 年間19回 4/2～1/28	5,310
802	新規採用養護教員研修	野口	<p>■ 養護教員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、現職研修の一環として、学校保健全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 養護教員に必要な資質と能力、教育に果たす養護教員の役割、学習指導要領と保健学習、保健指導・野口裕子（総合教育センター指導主事）★                  (2) 保健室経営案と学校保健計画の立案、野口裕子（総合教育センター指導主事）★                  (3) 健康教育の授業研究に向けて指導案検討・野口裕子（総合教育センター指導主事）★                  (4) 小学校における保健室経営と健康教育の実践・安藤あゆみ（高津小学校）★                  (5) 中学校における保健室経営と健康教育の実践・工藤晶子（柿生中学校）★                  (6) 健康教育の実践、学校での授業研究・養護教諭の活動の評価・野口裕子（総合教育センター指導主事）★                  ※801新規採用教員研修の12回〔1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 15〕も受講</p>	新規養護教諭	7/3 8/25 9/29 10/1 10/30 12/18	48
803	新規採用学校栄養職員研修	越	<p>■ 学校栄養職員の基礎的及び専門的知識・技能の向上を図るために、ライフステージに応じた研修の一環として、学校給食全般に関する基礎研修及び専門研修を実施し、実践的指導力と使命感を養うとともに幅広い知見を得る。</p> <p>(1) 学校給食の概要とサービス・給食管理システムについて・鈴木尚子（健康給食推進室）★                  (2) 給食試食会の進め方・鈴木尚子（健康給食推進室）・下川香苗（白幡台小学校）▲                  (3) 食に関する指導Ⅰ（給食時間における指導等）・鈴木尚子（健康給食推進室）▲                  (4) 食に関する指導Ⅱ（指導の実践にむけての工夫）・鈴木尚子（健康給食推進室）★                  (5) 食に関する指導Ⅲ（指導の実践にむけての工夫）・鈴木尚子（健康給食推進室）★                  (6) 食に関する指導Ⅳ（授業の実践・指導講評）・鈴木尚子（健康給食推進室）・高橋徹（総合教育センター指導主事）★                  ※801新規採用教員研修の12回〔1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 15〕も受講</p>	新規学校栄養職員	4/8 8/21 8/28 11/17	4
804	2年目教員研修	鬼頭	<p>■ 授業づくり、学級経営、児童生徒指導の3つの視点で普段の教育活動を振り返り、自己の課題を見付け、課題解決に向けて具体的な手立てを考え、継続的に実践することができる力を身に付ける。</p> <p>(1) ・ガイダンス・事前資料のポイントの説明：道徳、特別活動、総合的な学習の時間：指導主事（総合教育センター）・班別協議（1年目、2年目前半を振り返った成果と課題、授業研究会へ向けて、班テーマの設定と授業づくり）○                  (2) 班別授業研究（公開授業及び研究協議、新たな自己課題の設定）○</p>	2年目教員（全校種）	6/19 2/1 2/2	579
805	3年目教員研修	伊藤悦	<p>■ 教科の目標と内容の理解を深めるとともに、自己の課題を一層明確にして授業改善を図り授業力を高めるとともに、教員として学び続ける態度を身に付ける。</p> <p>(1) ガイダンスと班別協議（2年目までの成果と課題、班で共有の視点の設定）○                  (2) 班別授業研究（公開授業・研究協議、ステージ2に向けた実践目標の設定）○</p>	3年目（全校種）教職員	5/25 1/15	568
806	2校目異動者研修	鶴木	<p>■ 新しい職場で求められる役割を考え、新たな視点での実践を通して中堅教員としての素地を培う。</p> <p>(1) 勤務規律（講師：教職員課 担当課長）・メンタルヘルス（給与厚生課）・研修ガイダンス・人権尊重教育研修（講師：人権・共生教育 担当課長）○                  (2) 学校の中核的な役割を果たす教員としての素地を養う～OJTを中心として、管理職や所属学年等職員との協議を通して、これまでの自分を振り返り、取り組む課題を明確にする～○                  (3) 数年先を見通した取組を考える～OJTを中心として協議し、数年先を見通した課題を考え、実践計画を立てる～○</p>	2校目異動者（全校種）教職員	6/1 7/20 12/24	573
807	中堅教諭等資質向上研修	望月	<p>■ 川崎市の教員としての使命感を養うとともに、個々の豊かな実践力の向上を図る</p> <p>(1) 閉講式・研修ガイダンス・実践力を高める研修①◆教職員勤務規律研修△                  (2) 授業研究①                  (3) 教育課題研修①：指導主事（総合教育センター）★                  (4) 課題研究①・教育課題研修②：指導主事（総合教育センター）★                  (5) 実践力を高める研修②：指導主事（総合教育センター）★                  (6) 児童生徒指導研修：指導主事（総合教育センター）★                  (7) 授業研究②：指導主事（総合教育センター）★                  (8) 閉講式、優秀教員講演◆・課題研究②：指導主事（総合教育センター）★                  (9) 総合教育センター希望研修・共催研修の受講（総合教育センター等）▲                  (10)(11) 異校種交流研修（各学校）▲</p>	中堅（全校種）	5/25 7/29 7/30 (7/31) 1/5	1,415

808	15年経験者研修	山中	<p>■ 中堅教員としての企画力、運営力の向上を図り、校内におけるリーダー性を育成する。また、人権尊重についても研修を行う。</p> <p>(1) 服務規律研修・市職員(教職員人事課) ○ 「今、ミドルリーダーに求められるものとは？」・白井達夫(横浜国立大学) ○</p> <p>(2) 「人権尊重教育」について・市職員(教育政策室) ○</p>	全校種 教職員	5/25 12/25	294
809	新任総括教諭研修	松本	<p>■ 学校経営補佐等、総括教諭の職務遂行に必要な資質・力量の向上を図る</p> <p>(1) 新任総括教諭の位置づけ、これからの総括教諭に期待すること・西田寛(教職員課担当課長)、西村勇一郎(高津小学校長)、山田英児(東橋中学校長)○</p> <p>(2) 総括教諭として実践したこと(課題と成果)○</p>	新任総 括教諭	4/23 12/17	180
810	新任教頭研修	吉田	<p>■ 新任教頭としての心得や必要となる実務について研修を行う。</p> <p>(1) 実務研修「休暇制度について」・市職員(教職員人事課)／「帰国・外国人児童、生徒教育について」・市職員(総合教育センター)／「計画配置パソコン研修」・市職員(庶務課、教職員人事課)△</p> <p>(2) 実務研修「教育の情報化、学校のICT機器について、著作権・個人情報・セキュリティ、校務用PCとAロッキー、ID管理システム、スマートアンケート」・市職員(総合教育センター)△</p> <p>(3) 実務研修「教育予算」「教育活動サポーター配置事業」「特別支援教育サポート事業」「財務事務」「勤務時間制度」「職場におけるメンタルヘルスケア」・市職員(教育委員会庶務課、指導課、学事課、企画課、給与厚生課)△</p> <p>(4) グループ討議「分散会による班別討議」・市立学校長▲</p>	全校種 教頭	6/18	
811	教頭研修	石井	<p>■ 教頭の職務遂行と学校運営にかかわる諸議題について具体的な事例をもとに研修し、管理職としての資質向上を図る。</p> <p>(1) 書面開催 メンタルヘルス：(給与厚生課)、「学校現場において気を付けるべき法的問題等」：高橋博文(教育委員会法律相談弁護士)○</p> <p>(2) 書面開催「法規演習」：市職員(教育委員会教職員課)○</p> <p>(3) 分散会ー2「課題研修」：市立学校長(市立学校)★</p> <p>(4) オンライン開催：「かわさきGIGAスクール構想について」(情報・視聴覚センター 新田指導主事)、講演「GIGAスクール構想とこれからの学校教育」：野中 陽一(横浜国立大学)◆</p>	教頭 副校長	6/10 8/4 11/24 1/6	728
812	新任校長研修	伊藤由	<p>■ 新任校長の学校全体の運営、管理や指導を伴う経営力に関する研修を行う。</p> <p>(1) ▲講話 総合教育センター所長 講演「学校経営と校長の役割」 瀧寺 繁夫先生(元校長会長) 「職場におけるメンタルヘルス」市職員(給与厚生課)</p> <p>(2) ▲実務研修「教職員の人事」他・市職員(教職員人事課)</p> <p>(3) ▲講話「学校事故と法的責任」・市職員学校法律相談担当弁護士(総務部庶務課) 講演「人権オンブズパーソン制度について」・川崎市代表人権オンブズパーソン</p> <p>(4) ▲「安心・安全な学校を実現する情報管理と管理職としての著作権」(総合教育センター情報・視聴覚センター 和田指導主事) 班別討議：「学校運営の現状と課題」・市職員(学校教育部)</p>	新任校 長	4/10 4/27 7/22	
813	校長研修	岡部	<p>■ 校長の職務遂行と学校運営にかかわる諸課題についての最新の理論や実践等を学び、校長としての資質の向上を図る。</p> <p>(1) 書面開催 開講にあたって(センター所長) 学校再開に伴う教育相談的支援(教育相談センター 室長)</p> <p>(2) 講演「学校として社会として支えていくために」～不登校児童生徒とのかかわり方～ 西野 博之(認定NPO法人フリースペースたまりば 理事長) 講話「メンタルヘルス」給与厚生課精神保健相談員</p> <p>(3) オンライン開催(動画配信) 講演「学校組織のマネジメント」～マネジメントとは、リーダーシップとは～ 小杉 俊哉(合同会社THS経営組織研究所 代表社員) 講話「人権尊重教育の推進について」(人権・共生教育担当担当課長)</p>	全校種 校長	6/29 8/28 1/19	348
814	小学校夏季体育実技講習会	門口	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 器械運動(跳び箱運動)、ゲーム①(ベースボール型)、表現運動(リズムフォークダンス)、ゲーム②(ゴール型:サッカー)・市立学校教諭</p> <p>(2) 陸上運動(高跳び・幅跳び)、体づくり運動(多様な動き・体力を高める)、器械運動(鉄棒運動)、保健(4・6年生) 講師：市立小学校教員▲</p>	小学校 教諭・ 新規採 用5年 未満教 諭	中止	
815	中学校夏季体育実技研修会	門口	<p>■ 各運動領域の実技研修を通して、資質・能力の向上と指導法の充実を図る。</p> <p>(1) 体づくり運動、剣道、水泳、バスケットボール・市立学校教諭</p> <p>(2) ダンス、バレーボール、器械運動、保健 講師：市立中学校教員△</p>	中学校 保健体 育科教 諭	中止	
816	小学校新規採用教員水泳実技講習会	門口	<p>■ 小学校教員の泳力向上と技術の習得及び指導力の向上を図る。</p> <p>(1) オリエンテーション、講義、リズム水泳、低学年の指導法(水慣れ、水遊び、水にもぐり、浮く)、中学年の指導法①(いろいろな浮き方、伏し浮き、浮く進む感覚づくり、けのび)、中学年の指導法②(呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ一面かぶりクロール)、中学年の指導法③(呼吸をしながらの初歩的な泳ぎ→かえる足泳ぎ)・市立学校教諭</p> <p>(2) 講義、ウォームアップ(アクアビクス)、高学年の指導法①(クロール、平泳ぎの泳法指導ポイント-続けて長く泳ぐために-)、高学年の指導法②(長く泳ぐための課題をもった学習ゲーム、距離・競争、ストローク数)、3泳法泳力向上タイム(3泳法選択:クロール・平泳ぎ・背泳ぎ)、10分間泳法・クールダウン&amp;ヒーリングタイム 講師：市立小学校教員▲</p>	小学校 採用5 年未満 教員	中止	

817	小学校音楽科実技研修	伊藤由	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 小学校教員の歌唱、器楽の基礎的な技能の向上と音楽科指導における指導力の向上を図る。</li> <li>(1)歌唱実技及び指導法▲</li> <li>(2)器楽実技及び指導法▲</li> </ul>	小学校新規採用5年未満教諭	中止	
818	中学校数学科初任者教員指導力向上研修	松本	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中学校数学科初任者を対象に、指導方法、評価方法等について研修し、指導力の向上を図る。</li> <li>(1)中学校数学科の教師として・大串一彦（元校長・玉川大学客員教授）▲</li> <li>(2)数学科の授業づくり・二瓶哲哉（附属中・教諭）▲</li> <li>(3)(4)学習指導要領 学習評価の理解・地曳善敬（元教諭・星槎学園高校教諭）▲</li> <li>(5)中学校数学科授業づくり・佐藤壽仁調査官（国立教育政策研究所教育課程センター）▲</li> <li>(6)小学校算数科授業づくり・小石沢勝之（筑波大学附属中学校）▲</li> <li>(7)授業研指導案検討・松本崇（総合教育センター指導主事）・3年目数学科教員▲</li> </ul>	中学校数学科初任者	中止	
819	中学校理科初任者教員指導力向上研修	吉田	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 中学校理科初任者を対象に観察・実験の実技研修や市内にある理科関連の施設での研修を実施し、早期に指導力の向上を図る。</li> <li>(1)授業力向上①「資質・能力を育む授業づくり」国士舘大学教授小野瀬倫也氏 観察実験研修①「おもしろ科学実験2019」市内CST、中学校理科観察実験推進委員会▲</li> <li>(2)観察実験研修②「粒子領域が好きになる」総合教育センター指導主事 臨地研修①「多摩川がさがさ探検」多摩川塾塾長 中本 賢氏、市内教員▲</li> <li>(3)観察実験実習③「エネルギー領域が好きになる」総合教育センター指導主事 授業力向上②「教科書の不思議」元市内中学校教諭 福山 昇宏氏▲</li> <li>(4)臨地研修②「川崎の先端科学技術」★ 講演「身の回りの不思議さや科学に関する偉人の偉業に感動～視野を広くに、自らを高めよう」東京理科大学名誉教授 藤嶋昭 氏 講義「科学への興味を高めるために」KISTEC光触媒グループ主任研究員 落合剛氏</li> <li>(5)臨地研修③「おもしろ玉手箱、有孔虫観察等」かわさき宙と緑の科学館 指導主事、職員、アトム工房▲</li> </ul>	中学校初任者理科	11/12	13
820	新任教務主任研修	伊藤悦	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校教育全般を企画・運営・評価する教務主任の資質・能力の育成のために、講義・演習等により校務遂行に資する研修を行う。</li> <li>(1)講話「新任教務主任への期待」・(川崎市立中学校長)△ 演習「公簿類の取扱」連絡・望月隆（総合教育センター指導主事） 説明「校務支援システム」草柳譲治（総合教育センター指導主事）</li> <li>(2)演習「教育法規の運用と解釈」・（教育委員会教職員人事課担当課長）△ 講話と質疑応答「教務主任の実務」(川崎市立小・中学校教務主任)</li> <li>(3)「プログラミング教育」「教育の情報化」「学校ホームページ」△ 「情報モラルおよび情報セキュリティ」「校務支援システム」 草柳譲治・和田俊雄（総合教育センター指導主事）</li> <li>(4)グループ演習「学校組織マネジメント」○ 小学校：白井達夫（横浜国立大学非常勤講師） 中学校・高等学校・特別支援学校：前田博明（認定NPO法人教育活動総合サポートセンター理事長）</li> </ul>	新任教務主任	5/8(1)(2) 7/27(3)(4)	40
821	養護教員研修	野口	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 養護教諭が専門職として自らの技術の向上に努め、適切な対応を行える力量を高める。</li> <li>(1)「心肺蘇生法実技」・木鳥浄文（日本赤十字社神奈川支部）△（地区ごとに2回に分けて実施）</li> <li>(2)「ゲーム依存について」・北湯口孝（久里浜医療センター心理療法士）▲</li> </ul>	養護教諭	中止	
822	学校プール安全衛生・蘇生法研修	野口	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校プールにおける水泳指導前に、安全衛生に関する知識についての研修を深め、水泳指導計画に活かす。また、日常の学校事故の緊急時に適切な処置を行うことができるよう、心肺蘇生法の実技研修を通して技術の向上を図る。</li> <li>「学校プールの水質管理について」・福嶋仁（川崎市立学校薬剤師）</li> <li>「学校プール安全管理上の留意事項について」・門口知弘（総合教育センター指導主事）</li> <li>心肺蘇生法・木鳥浄文（日本赤十字社神奈川支部）△</li> </ul>	全校種教職員	中止	
823	中学校外国語（英語）教育指導力向上研修	鬼頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ これからの外国語（英語）教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。</li> <li>(1)学習評価に関する評価▲</li> <li>(2)授業研究会→学習評価に関する研修に変更★</li> </ul>	中学校英語科教員	6/16 10/20	52
824	高等学校外国語（英語）教育指導力向上研修	鬼頭	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ これからの外国語（英語）教育に必要な知識や技能を習得し、指導力向上を図る。</li> <li>(1)学習評価に関する研修▲</li> <li>(2)授業研究会▲</li> </ul>	高校英語科教員	中止	

825	小学校英語強化教員（ERT）	齋藤	<p>■ 小学校英語強化教員として各小学校の支援の必要な知識と技能を確認し、共通理解を図る。</p> <p>(1) オリエンテーション・新学習指導要領の理解★  (2) 英語教育推進リーダーによる研修①★  (3) 基礎研修・デジタル教材を使った実務研修★  (4) 英語教育推進リーダーによる研修②★  (5) 新学習指導要領における外国語教育の理解（新規採用者の臨時研修）★  (6) 第一回小学校教育課程研究会への参加▲  (7) 英語教育推進リーダーによる研修③▲  (8) 新学習指導要領における外国語教育の理解（新規採用者の臨時研修）★  (9) 模擬授業と研究協議★  (10) これまでの振り返りと情報交換▲</p>	ERT	4/6 4/8 6/12 7/20	32
826	外国語教育推進担当者（CET）	齋藤	<p>■ 新学習指導要領の実施に向け、各校の外国語教育を推進するために必要な知識を身に付ける。</p> <p>(1) CET研修について・小学校外国語教育について・情報交換▲  (2) 新学習指導要領における小学校外国語教育について・校内研修について・情報交換▲  (3) 英語演習（教室英語・Small Talk）講師：日本人講師5名 外国人講師5名★  (4) 小小連携会議・高等学校ALT配置日程調整会議○</p>	CET各校1名	10/30 2/26	108
827	市内学校理科主任研修会	吉田	<p>■ 理科授業における安全指導及び新学習指導要領の趣旨を踏まえた理科学習指導の周知を図ること等について研修する。また、子どもたちの理科への興味・関心を高めるために、教師自身が学び続けることの大切さや伝えるための工夫について学び、理科の授業力向上につなげる。全体研修及び校種別分散研修★</p> <p>・安全指導  ・理科室の不要廃棄試薬品、薬品管理簿等について  ・放射線教育について  ・新学習指導要領について〔ポイント、評価、新教材（小学校プログラミング教材）等〕（総合教育センター指導主事）  ・理科におけるかわさきGIGAスクール構想（総合教育センター指導主事）</p>	小中高 ろう学 校教員	3/17	172
828	小・中学校合同道徳教育研修	岡部	<p>■ 講演会、授業公開を実施し道徳教育や道徳の時間に対する理解を深め小・中学校の連携を深める。</p> <p>レポート作成研修◆  ①道徳教育の構想  ②道徳科の授業実践</p>	小・中 学校教 員		270
829	道徳教育推進教師研修	岡部	<p>■ 各学校の道徳教育を推進していくために必要な知識や連携の在り方について研修する。</p> <p>(1) 中止▲  (2) 動画配信（県内の指導主事が集まって作成した動画） 研修アンケートの提出◆</p>	小・中 学校教 員	2/19	169
830	キャリア在り方生き方教育・進路指導研修	望月	<p>■ 児童・生徒一人一人が将来の生き方について主体的に考え、選択できる能力や態度を身に付けるキャリア教育・進路指導の推進を目指し、その担当者としての資質・能力の向上を図る。</p> <p>(1) 講演「キャリア・パスポートが描く軌跡」講師：藤田晃之（筑波大学人間系 教授）  情報伝達（キャリア・パスポートについて） 安齋 陽子（教育政策室）★  (2) 実践報告 キャリア在り方生き方教育研究推進校 久本小・菅生中・菅中  情報交換（キャリア・パスポートの引継ぎと活用）◆</p>	全校種 教職員	9/8 1/29	343
831	特別支援学級等新担任者研修	盛光	<p>■ 文部科学省で定められた必修研修で、特別支援教育についての理解を深めるとともに、指導についての基礎的事項の理解を中心に資質の向上を図る。</p> <p>(1) 開講式 「生き生きとした子どもを育てるために」（総合教育センター指導主事）○  (2) 「教育課程とサポートノート作成について」（総合教育センター指導主事）○  (3) 「特別支援学級の学級経営について」▲  (4) (5) 「障害種別に応じた指導の在り方」○▲  (6) 「授業づくりと具体的な指導について」上原徹枝（東生田小）○</p>	特別支 援学級 等の新 担任者	(1)(2) 5/29 (4) 8/31 (6) 10/30	588
832	特別支援学級等新担任者2年目研修	盛光	<p>■ 川崎市特別支援教育推進計画に基づき教員の専門性の向上を目的とした研修</p> <p>(1) 開講式 班別研修レポート発表（市内小・中・特別支援学校）○  (2) 班別研修レポート発表（市内小・中・特別支援学校）○</p>	小・中・ 特別支 援学級 等 2年目 の担任	5/29 10/30	146
833	コーディネーター養成研修	藤田	<p>■ 校内、地域における特別支援教育を推進していく役割に必要な資質、技能を養う。</p> <p>(1) 「COの役割と発達障害の基礎知識」盛光秀之（総合教育センター指導主事）○  (2) 「自閉症・ADHDの理解と対応」霜田浩信（群馬大学教育学部教授）○  (3) 「アセスメントの理解」鹿島理子（特別支援教育センター）○  (4) 「ワークショップ形式で個別指導計画の作成」鹿島理子（同上）○  (5) 「虐待とその対応」玉井邦夫（大正大学）★  (6) 「教育相談の基礎知識」高橋あつ子（早稲田大学大学院）★  (7) 「学びのユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり」（同上）★</p>	中・高・ 特の初 めでの コー ディ ネー ター	(1)9/1 (2)8/3 (3)10/13 (4)8/27 (5)9/23	230
834	通級指導教室新担任者等研修	鹿島	<p>■ 障害のある子どもの見方、指導計画、具体的指導、関わり方についての研修</p> <p>(1) 「通級指導教室の指導について」 鹿島 理子（総合教育センター）○  (2) 「情緒の指導」講師：鈴木麗子（久本小通級指導教室教諭）、持田美和（富士見台小通級指導教室教諭）○  (3) 「聴こえの指導」講師：三上庸子、江守里香（壘学校教諭）○  (4) 「言語の指導」講師：大槻恵美（三田小通級指導教室教諭）、森慶子（はるひ野小通級指導教室教諭）▲  (5) 「思春期の特性・中学校通級の指導」講師：川上真貴（生田中通級指導教室教諭）▲  (6) 「事例に基づく協議及び指導助言」講師：鈴木麗子（久本小通級指導教室教諭）、持田美和（富士見台小通級指導教室教諭）、大槻恵美（三田小通級指導教室教諭）、森慶子（はるひ野小通級指導教室教諭）、川上真貴（生田中通級指導教室教諭）★</p>	通級指 導教室 を初め て担任 する教 員等	5/7 9/4	114

835	児童支援コーディネーター研修	山田	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 児童支援コーディネーターとして必要な知識や技術を習得する。</li> <li>(1)外部機関連携・いじめ・外国ルーツ(教育相談センター指導主事)◆e</li> <li>(2)コーディネーターの役割と発達障害の理解(特別支援教育センター指導主事)○</li> <li>(3)キレる子の理解と対応(教育相談センター指導主事)◆e</li> <li>(4)～(5)アセスメントの理解・個別の指導計画作成ワークショップ(特別支援教育センター指導主事)○</li> <li>(6)チーム支援推進のためのケース会議の理解と実際(教育相談センター指導主事)○</li> <li>(7)チーム支援推進のためのケース会議の理解と実際(総合教育センター専門員 芳川玲子)▲</li> <li>(8)教員のためのカウンセリング基礎(日本女子大学准教授 川崎直樹)◆テレビ会議システム</li> <li>(9)UDL～ユニバーサルデザインラーニング(早稲田大学准教授 高橋あつ子)★</li> <li>(10)取り出し指導の意義と進め方(特別支援教育センター指導主事)★</li> </ul>	児童支援コーディネーター	5/15 7/22 8/1 8/17 9/17 9/23 10/13 10/22	477
836	教育相談研修会	松田	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不登校児童生徒の理解を中心に、教育相談的な見方や考え方を学ぶ。</li> <li>(1)児童生徒理解(Nits研修セミナー)◆</li> <li>(2)コロナ禍の引継ぎ(教育相談センター指導主事)★</li> </ul>	小・中教職員	6/16 1/19	332
837	新任栄養教諭	越	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栄養教諭として専門と経験を活かしながら、職務に対しての理解を深め、校務遂行に必要な力を高める。</li> <li>(1)「栄養教諭としての連携の在り方」小田貴子(健康給食推進室指導主事)▲</li> <li>(2)「栄養教諭としての役割」阿久沢規子(北部給食センター指導主事)★</li> </ul>	新任栄養教諭	10/20	2

## 2 ICT活用

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
101	セキュリティ及び情報モラル教育	和田	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 情報セキュリティの重要性の理解とともに、情報社会での生き抜く子どもたちを育てる授業方法を習得し、学校全体で取り組む企画力、実践力を身につける研修(横浜国立大学教職大学院連携研修)</li> <li>(1)情報セキュリティ及び情報モラル教育 講師：指導主事・民間インストラクター▲</li> </ul>	全校種教職員	中止	

3 授業力向上研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
201	国語科教育	伊藤悦	■ 国語教育の動向を踏まえながら、学習指導について、講義や研究報告、実践発表、演習等を通して研修することにより、授業者としての資質の向上を図る。(共催研修) (1)学びの主体を子どもにおいた授業づくり 講師:中村和弘(東京学芸大学教授)▲ (2)授業づくり演習 講師:小学校常任委員/中学校教諭▲	全校種 教職員	中止	/
202	社会科教育	鶴木	■ 新学習指導要領の理念を生かした社会科学習の在り方を、講義や実践提案、演習を通して研修し、授業者としての資質向上を図る。 (1)授業改善研修会 中学校研究部会常任委員(中学校向け) ★ (2)県内臨地研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け) ▲ (3)小学校授業づくり研修会 小学校研究会常任委員(小学校向け) ▲	全校種 教職員	7/7	55
203	算数・数学科教育	松本	■ 児童生徒の学習意欲を高める授業のあり方についての研修を通して授業者としての資質の向上を図る。 (1)算数・数学科の授業改善▲ (2)小学校算数科授業づくりの基本 佐藤寿仁(国立教育政策研究所学力調査官)▲ (3)中学校数学科授業づくりの基本 小石沢勝之(筑波大学附属中学校)▲	全校種 教職員	中止	/
204	理科教育	吉田	■ 授業研究や児童・生徒役として受ける研修、科学館や生田緑地での臨地研修を通して、子どもたちが主体的・対話的に学ぶためにはどのような手立てが必要なのか。教材・教具の工夫、導入・展開の工夫、単元を貫く課題や学習問題の設定の仕方、子どもの表現の引き出し方・見とり方などについて考え、授業力を向上させる。▲ (1)「授業で理科を語り合おうー小・中学校合同授業研究ー」(共催研修)市立小学校理科教諭 (2)「子ども達の資質・能力を育むための授業改善の手立て」国士舘大学 教授 小野瀬倫也氏 (3)「電気の利用(プログラミング教育)」総合教育センター指導主事 (4)「粒子領域が好きになる」総合教育センター指導主事 (5)「エネルギー領域が好きになる」総合教育センター指導主事 (6)「地層・植物観察研修」(共催研修)小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員 (7)「天体観測研修」(共催研修)小学校理科教育研究会、かわさき宙と緑の科学館職員	全校種 教職員	中止	/
206	音楽科教育	伊藤由	■ 今求められている音楽科教育の充実に向け、授業の充実と改善の具体的な方策を実技、講義を通して研修し、授業力の向上をめざす。 (1)小学校音楽科共催研修 「管弦楽指導」講師:音楽教育推進協議会▲ (2)小学校音楽科共催研修 「器楽指導」講師:音楽教育推進協議会▲ (3)中学校音楽科共催研修 ★	(1)(2) 小教員 (3)は 小 中教員 (4)は 中教員	1/20	51
207	図画工作・美術科教育	長澤	■ 図画工作・美術科教育における今日的な課題や問題点を広い視野から把握し、自己の授業改善への具体的な手だてを研修する。 (1)小学校図画工作科共催研修 実技研修を行う 講師:図画工作科常任委員	全校種 教職員	中止 7/27	/
208	体育・保健体育科教育	門口	■ 実技研修や講義を通して、体育・保健体育科教員の資質の向上を図る。 (1)新学習指導要領に基づく指導と評価(共催研修) 講師:佐藤豊(桐蔭横浜大学教授)▲ (2)新学習指導要領に基づく指導と評価(共催研修) 講師:高田彬成(帝京大学教授)◆ (3)新しい武道を学ぶ「空手道」(共催研修) 講師:川崎市空手道連盟★ (4)柔道の指導法(共催研修) 講師:高井明(元川中島中学校長)、市内中学校教員2名★ (5)剣道の指導法(共催研修) 講師:市内中学校教員3名★	全校種 教職員	中止 2/10 9/23 10/20 11/25	161
209	家庭・技術・家庭科(家庭分野)教育	越	■ 実践的な実技研修を通して、スキルアップや体験的な学習の工夫ができる教員の授業力向上を図る。 (1)家庭・技術・家庭科(家庭分野)「新学習指導要領に基づいた調理実習」(中学校技術・家庭科研究会共催研修) 杉山久仁子(横浜国立大学教授)▲ (2)(3)家庭・技術・家庭科(家庭分野)「生活を豊かにする物の製作」(中学校技術・家庭科研究会共催研修) 中村百合(蛇の目ミシンインストラクター)▲	全校種 教職員	8/18 8/19	/
210	技術・家庭科(技術分野)教育	望月	■ 題材開発や教材開発を視点とした研修を行い、教員の授業力向上を図る。 (1)技能・技術研修1(共催研修)双方向性のあるコンテンツのプログラミング 講師:高津・宮前地区教員▲ (2)技能・技術研修2(共催研修)計測・制御のプログラミング 講師:五十嵐晶子(ウチダシステムズ)★4地区に分けて実施	中 学 校・高 等 学 校 教 職 員	7/17 7/20 8/19 8/25	43
211	英語科教育	斎藤	■ 新しい英語教育に対応し、文字指導と学級担任が進める授業について研修し、指導力向上を図る。 (1)文字認識や音韻認識について理解を深めよう 小学館集英社プロダクション講師▲ (2)英語をより多く使って授業を進めよう イーオン学校教育課講師▲ (3)新学習指導要領の趣旨を踏まえた評価について学ぶ～パフォーマンス評価の進め方～▲	全校種 教職員	中止	/
215	総合的な学習(探究)の時間	石井	■ 体験活動を学習活動に適切に位置付けて、単元構想する資質の向上を目指す。 (1)(2)福祉単元の充実 各区社会福祉協議会職員との情報交換や福祉疑似体験から、各校の福祉単元の課題を見出す。実践事例発表を参考に、自校の福祉単元の見直しを図る。高木 寛之(山梨県立大学教授)▲	全校種 教職員	中止	/
216	高校教育	山中	■ 新学習指導要領で示された資質・能力の育成の実現に向けて、要となる「総合的な探究の時間」の実践研究や講演を踏まえて、カリキュラムマネジメントについて考える。 (1)前年度の高校教育研究会議の研究者からの研究報告▲ (2)カリキュラム・マネジメントについて 講師 浦和大学 客員教授 工藤 文三▲	高 校 教 職 員	8/17	/



4 教育課題研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
301	研究の進め方	石井	■ 校内研究や研究推進校等での授業研究の進め方や研究のまとめ方について研修し、学校での研究を推進していくための資質の向上をめざす。 3回のみ実施 (3)「子どもの姿で研究の成果を語ろう」 小林宏巳（早稲田大学教授）	全校種 教職員	12/23	18
304	初任者を対象とする川崎市内見学	野口	■ 初任者研修において、川崎市の社会教育施設の専門的な役割について理解を深める機会の一つとして、川崎市平和館を実際に見学し、川崎市の歴史等について学び日常の教育活動に生かす。 研修場所・川崎市平和館★	初任者 研修対象の 初任者	8/4	31
307	主権者教育	鶴木	■ 川崎市の主権者教育について、主権者教育の手引き「自分の意思が社会を創る」の活用と実践について学ぶ。 (1)主権者教育概要説明・授業計画の作成 ▲	全校種 教職員	中止	
308	企業派遣	松本	■ キッザニアを運営する株式会社のビジネスモデルを学ぶとともに、多くの学校団体が来場するキッザニアを研修の題材として、子どもへの関わり方や考え方について学び、様々な視点から教育活動に取り組むことができる資質や能力を高めます。▲	全校種 教職員	中止	
310	ビジネスマナー	望月	■ 実技演習や実践交流を通じて、社会人としてのビジネスマナーを学び、教職員としての資質の向上を図る。 (1)ビジネスマナー研修 講師：坂巻美和子（社員教育研究室 代表取締役）▲	全校種 教職員	中止	
316	特別支援教育Ⅰ「コーディネーター専門」	中澤	■ 特別支援教育について、より実践的で専門的な知識を身につける。 (1)学校現場で役立つ子ども虐待とその対応▲ (2)発達障害児の運動とその支援▲ (3)「高等学校の支援教育について考える①②」▲ 多摩少年院法務教官・LD発達相談センター 三島節子 (4)「音声教材の利用（マルチメディアデジ教科書・Access Reading）」▲ 東京大学先端科学センター (5)「ダウン症の理解と支援」▲ 公益財団法人日本ダウン症協会 代表理事 玉井邦夫 遠藤久恵（前川崎市立高津高等学校長） 三島節子（LD発達相談センターかながわ） 川崎市立高等学校教諭 (6)算数障害の理解と支援方法▲	全校種 教職員	中止	
318	特別支援教育Ⅱ「重度の障害がある子への支援」	藤田	■ 重度心身障害児に対する基礎知識について理解を深め、実践的指導力の向上を図る。 講師：土谷良巳（上越教育大学） (1)重度心身障害児概論・レポート報告及び協議①▲ (2)レポート報告及び協議②▲	特別支 援学 校、特 別支 援 学 級担 任	6/4 6/24 8/5	
319	特別支援教育Ⅲ「きこえや見え方に課題のある子への支援」	鹿島	通常の学級、特別支援学級、特別支援学校に在籍する難聴児童生徒、弱視児童生徒に対する基本知識を学び、実践的指導力の向上を図る。(1)(2)(3)△ 講師①②川崎市立聾学校 三上庸子、江守里香、伊藤泰子 講師③④横浜市立盲特別支援学校 松尾美代子、中西大輔	全校種 教職員	中止	
320	働き方・仕事の進め方改革	伊丹	教職員の長時間勤務は、大変重要な課題となっています。業務多忙の中で子どもたちと向き合う時間が十分に取れていないという実感もある中、自校の働き方・仕事の進め方を見直すことにより、業務改革を進めていくための考え方を学ぶ。	全校種 教職員	中止	
321	前長期研究員研究報告研修	鶴木	前年度長期研究員の研究の内容と、その後の実践の様子について報告し、参加者とともに協議して指導力の向上を図る。 ▲	全校種 教職員	中止	
322	小学校特別支援学級進学相談研修	中村 △	■ 特別支援学級に在籍する児童に対する進学相談の進め方について、基本的な考え方を学ぶ。	小学校・ 特別支 援学 校(小 学部)	中止	
323	中学校特別支援学級進路相談研修	中村 △	■ 特別支援学級に在籍する生徒に対する進路相談の進め方について、基本的な考え方を学ぶ。	中学校・ 特別支 援学 校(中 学部)	中止	

5 職能別スキルアップ研修

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延人数
401	養護教諭キャリアアップ	野口	■ 社会や環境の急激な変化により、子どもの健康課題は複雑になり多様化してきている。その解決のために養護教諭の果たす役割は益々重要となってきている。専門的な知識、技術を演習を通して学び資質の向上を図る。 (1)子どもの心を動かす養護教諭の授業 佐見由紀子（東京学芸大学教職大学院准教授） (2)令和元年度文部科学省健康教育指導者養成研修報告会 若井直子（川崎市立栗木台小学校 総括教諭、養護教諭） 岡村智美（川崎市立中原中学校 養護教諭）▲	養護教 諭	中止	
402	学校事務職員	望月	■ 学校事務職員が主体的に学校組織マネジメントに参画していくために必要な資質・能力の向上を図る。 (1)チーム学校 講師：白井 達夫（横浜国立大学非常勤講師）▲	学校事 務職員	中止	
403	栄養教諭・学校栄養職員	越	■ 食に関する指導について学び、指導力の向上を図る。 (1)実践事例をもとに食に関する指導について学ぶ・金井康子（横須賀市立大楠小学校栄養教諭）・木村生子（横須賀市教育委員会保健体育科主査）	栄養教 諭・学 校栄 養 職 員	9/23	35



405	幼児教育と小学校教育の接続	石井	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続 子どもの発達を踏まえ、一人一人の子どもの見方、関わり方のポイントを学ぶ。</li> </ul> 講師 斎藤 正典（相模女子大）	全校種 教職員	11月下旬よ り1か月間	956
-----	---------------	----	---	------------	-----------------	-----

6 休日利用研修 リクエスト研修 その他

番号	コース名	担当	内容	対象	実施日	参加延 人数
501	休日利用「授業力向上」	松本	授業を見る視点、研究協議の進め方に関する素養を育てる▲	全校種 教職員	中止	/
	リクエスト研修		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校から要請されたテーマに応じて、担当の指導主事が講師を務める。</li> </ul> (1) 要請に応じて随時設定・指導主事（総合教育センター）	全校種 教職員		665

### 3 **カリキュラムセンター事業**

学習指導要領、かわさき教育プラン等を踏まえて、教育諸課題に係る研究を行うとともに、研究成果をもとに教員の資質・能力を高めることや学校の指導体制を構築するための支援を行った。

#### ■事業目標

- 1 **学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実**
- 2 **教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進**
- 3 **教職員の資質・能力や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備**
- 4 **各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進**
- 5 **所管業務の効率的な執行**

#### ■事業内容

##### 1 **学習指導要領に基づく教育課程の編成や教育活動の円滑な実施に向けた指導・支援の充実**

###### (1) **拡大要請訪問・要請訪問の実施**

- 各学校の教育課程の編成や授業力向上に向けた校内研修や研究を支援するため、指導主事をチームで派遣する拡大要請訪問を実施するとともに各教科等の個々の要請に応じて指導主事を派遣した。また、拡大要請訪問が各学校の年間を通した授業改善への取組に位置付けられるよう支援した。
  - 新型コロナウイルス感染症の感染状況により、規模を縮小して実施するなど当初の予定から変更したケースもあったが、各学校の実態や要望に応じて実施した。
- ★拡大要請訪問 21 校実施（中止 3 校）

###### (2) **教育課程研究会の開催及び教育課程編成・学習指導に係る指導資料の作成**

- 教育課程研究会では、授業研究や研究協議を通して、新学習指導要領の趣旨や内容について周知するとともに、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」、「児童生徒の発達を支える指導の充実」等についての理解が深まるように努めた。
  - 各教科等について、全市に動画配信で新学習指導要領の趣旨や評価について周知した。動画は何回も視聴できることや、様々な教科が見られるという利点があり、多くの教員が視聴することができた。今後の開催については、集合しての実施や、動画配信がよい場合などを内容や新型コロナウイルス感染症の感染状況によって開催形態等を考えていきたい。
- ★6月 授業研究会は中止 8月 実践報告会等は動画配信で実施
- 小・中学校については、各学校が学習指導要領及びかわさき教育プランの理念・目標の実現に向けた教育課程編成や授業づくりに活用できる資料として総則冊子を作成した。同様に、研究(部)会との連携を図りながら各教科等の学習指導要領実践事例研究冊子(CD-ROM)を作成・配布した。
  - 新学習指導要領の趣旨等について、高等学校各教科等研究協議会等の機会を活用し、伝達・周知することができた。また、総則について「総則・総合的な探究の時間」部会の一環として、総則についてのオンライン動画を作成し、各学校での研修等に活用できるようにした。

###### (3) **習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の研究及び支援**

- 習熟の程度に応じたきめ細やかな指導研究会議を設置し、長期研究員と研究員により、「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」の実践的研究を行った。算数・数学に限らず、小学校国語科・体育科、中学校数学科・英語科における「習熟の程度におけるきめ細やかな指導」について探り、研究報告会で報告した。
- 「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」が他教科等の授業や教育活動に生かされるよう、様々

な場面で成果や考え方を広め、実践につながるよう支援した。

★授業実践事例DVDを作成し、小中学校全校に配布

★4月第1回は書面開催 10月第2回は動画による各種学校の実践報告など

## 2 教育課題への対応、施策研究、調査・基礎研究、教育実践に資する研究等の推進

○研究主題「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成」のもと各種研究に取り組んだ。

### (1) 学校教育に関する調査・基礎研究

○指導主事による施策研究及び調査・基礎研究として、研修の見直し、学力調査分析活用、新しい評価、教科用図書の研究、GIGA端末を用いた学習指導等に取り組んだ。

○新しい学習評価について、教育課程研究会や新教育課程説明会、学習編成届説明会などの機会でも周知した。さらに、各学校からの要請に応じて校内研修の講師を務め、「観点の趣旨」や「指導と評価の一体化」などについて分かりやすく説明し、評価のための評価ではなく、資質・能力を育成するための評価について、支援することができた。また、学習評価のための資料として、「小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き」を作成し配付した。

### (2) 各学校の教育実践に資する研究の推進

○研究(部)会等との連携を図り、長期研究員を配置した研究会議、指導主事と研究員による研究会議を中心に各教科等・教育課題に係る実践研究を推進し、各学校の授業改善等の取組を支援した。

○センター研究報告会はオンラインコンテンツを視聴する報告会週間と報告分科会(集会・Zoom形式)という2段階構成で実施した。これまで課題であった「報告内容を複数学びたい」という声にも対応できるようになり、複数の研究報告を視聴することが可能となった。

★長期研究員による研修 7研究 指導主事と研究員による研究 4研究  
カウンセラー研究 1研究 その他各室指導主事による指導主事研究

★オンラインコンテンツ視聴回数合計 2590回 報告分科会参加者合計 287名

## 3 教職員の資質や指導力の向上を目指した研修の充実と研修推進体制の整備

### (1) 必修・希望研修の充実

○教職員のライフステージに応じた年次研修を中心とする必修研修、教職員のニーズに応じた希望研修を教員育成指標に基づいて実施し、専門職としての資質・能力や指導力の向上を図った。また、「学び続ける教員」の育成と「働き方、仕事の進め方」の観点の両面からの研修の充実と見直し等、研修推進体制の整備に努めた。

○新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて集合型研修の実施が困難であったが、教職員の学びを止めないように、これまで活用してきたe-ラーニングに加え、動画配信やテレビ会議システムといったICTを活用したオンライン研修を実施した。

○研修内容と感染状況を判断し、集合形式とオンライン形式を適切に選択し実施した。感染症対策としてZoomを活用したオンライン研修は、働き方、仕事の進め方の観点からも有効であった。

○新任栄養教諭研修を今年度から新設し、健康給食推進室と連携して市内の栄養教諭を講師として集合形式で研修を実施した。職務や役割についての理解が深められるように感染対策を講じながら、話し合いやグループワーク等を加えて実施した。

### (2) 指導改善研修の充実

○研修指導員の指導の下、受講者の研修課題に応じた適切な研修を実施した。

○教育活動の振り返りや、教師としての専門性を高める研修を行うことにより、受講生の指導力の向上につながった。

○受講者の実態と課題に応じた研修計画を立て、関係機関、施設と連携を取りながら適切に研修を

実施した。

#### 4 各教科研究会等との関連事業や各種教育課題関連事業等の円滑な推進

##### (1) 学校経営に係る教育課題への対応

- 小・中学校の校長会と連携を図り、川崎市学習状況調査を実施した。調査結果を分析し、報告書を作成するとともに、報告会等を通じて各学校へ全市的な課題と授業改善の視点等を周知した。拡大要請訪問等を活用し、各種調査の結果等をもとに、指導主事が授業改善に向けての指導助言を行った。
- 臨時休業が続いた期間もあったが、小学校学習状況調査に関しては、4月実施予定のものを7月に学校の状況に合わせて行うことができた。中学校は予定通り11月に実施した。小学校と中学校では実施時期が異なり、有意なデータを得ることができた。
- 各教科等・教育課題等に係る研究推進校事業や研究研修支援講師派遣事業等を実施し、各学校の教育活動の改善・充実に向けた取組を支援した。
- 研究推進校事業は、感染予防対策を講じながら、可能な限り研究を進めるよう推進し、各学校の実態に合わせた報告を実施することができた。  
★研究研修支援講師派遣 21件 研究推進校 39校
- 川崎市の教員を目指す大学生等に向けた「かわさき教師塾『輝け☆明日の先生』」を開講した。「かわさき教師塾」についての周知を図り、定員を超える応募があった。  
新型コロナウイルス感染症の感染状況により、集合型の受講は予定回数よりも減ってしまったが、自宅でも学びを積み重ねることができる資料を作成し、配布した。

##### (2) 各教科等に係る教育実践への対応

- 各教科等に係る関連事業については、研究（部）会と連携を図りながら適切に実施した。
- 各プロジェクトチームにおいては定期的な会議や必要に応じた臨時的な会議をもち、円滑な業務の実施に向けた話し合いや相談、確認等を行うことができた。
- 小・中・高等学校へのA L T配置、小学校へのE R T配置による外国語教育の支援を行った。また、英語教育改革に対応した小学校中核英語教員研修（C E T）研修、中学校外国語教育指導力向上研修、高等学校外国語教育指導力向上研修を円滑に実施し、教員の英語力及び指導力の向上を図った。
- 小学校配置A L Tを12名増員し、小学校外国語教育の授業時間数増に対応した指導体制の整備を進めた。  
★配置A L T数 小・中学校107名 高等学校6名
- 小学校英語強化教員（E R T）の支援により、学級担任の英語授業力向上を図った。
- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携して「現職教員C S T養成プログラム」を実施し、中核理科指導教員の育成を図るとともに、理科希望研修、中学校理科初任者教員指導力向上研修、市立学校理科主任研修を実施し、授業力向上のための支援を行った。また、小学校の全校に理科支援員を配置し、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質・能力の向上を図った。  
★理科支援員配置校 小学校113校  
★C S T認定者数 昨年度3名、全72名、C S Tによる研修実施4回
- 理科教育の推進について、横浜国立大学と連携した「現職教員C S T養成プログラム」について、横浜国立大学の教職大学院への改編が行われる令和3年度についても、引き続き実施していく方向で合意することができた。
- 「特別の教科 道徳」が円滑に実施されるよう、小中合同道徳教育研修や道徳教育推進教師研修、教育課程研究会等において、指導方法及び評価等についての研修を充実させた。
- 道徳教育推進教師研修では、神奈川県のご指導主事で作成した動画の配信を行い、道徳教育推進のための具体的な取組について周知した。道徳研究会議等の実践を取り入れる学校が増えた。  
★小中学校道徳教育研修はレポート研修に変更 約270名受講
- 主権者教育、キャリア在り方生き方教育、学校進路対策、高校教育等各種教育課題に対する事業

等を円滑に実施した。

- キャリア在り方生き方教育については、教育政策室や中学校校長会進路指導部会と連携して、総合教育センター内での分散とオンラインテレビ会議の2つの方法で実施した。
- 全面実施となったキャリア・パスポートの利用方法や、小・中・高の引き継ぎについて周知した。
- 主権者教育、消費者教育等の各事業において、各部署との連携を図り、円滑に事業等を進めることができた。
- 主権者教育については、担当者会で資料配付を行い、周知を図る等の取組を行ったが、予定していた夏期研修会は行わなかったため、授業研究会等で周知の機会をもった。
- 教育課題研究、副読本かわさきの編集・発行、読書のまち・かわさき事業、子どもの音楽活動推進事業等の各種事業を円滑に実施した。
- 副読本かわさきについては、最新の情報を掲載するとともに、令和5（2023）年度発行予定の大改訂版の検討を行った。

### **（3）人権尊重教育の推進**

- 総務部教育政策室に協力することや進路説明会の実施等に係る事業を円滑に実施した。

## **5 所管業務の効率的な執行**

### **（1）各種指導事務の円滑な推進**

- 各種事業について、他室や指導課、区教育担当、教育政策室等と連携して実施した。
- 学籍・指導要録等公簿の作成に係る事務、夜間学級運営、教育実習等の指導事務を円滑に実施した。
- 学籍・指導要録等公簿の作成については、小学校版の「指導要録記入の手引き」を作成、配付した。中学校版についても来年度に配付に向けて作成中である。
- 小学校における新学習指導要領全面实施を受けて、「学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き」を作成し、冊子と電子ベースで周知した。
- 夜間学級への入学希望者の相談、面接等の対応を学校と連携を図った。

### **（2）各種事業の基盤としての所内業務等の円滑な推進**

- 研究・研修推進に係る担当者会の企画・運営などの所内及び室内業務を円滑に実施した。
- 研究推進担当者会では、業務分担に基づき、感染拡大防止とICT機器の活用を踏まえ、研究全体会、研究報告会等の改善を行った。
- 研修推進担当者会では、感染状況に応じて「研修に対する基本的な考え方」を更新するとともに、感染防止対策やICT機器の活用を踏まえた研修形態等の改善を行った。
- 会議の精選、研修等応援体制等を見直した。
- 指導主事同士が定期的な会議や必要に応じた臨時的な会議をもち、円滑な業務の実施に向けた話し合いや相談、確認等を行うことができた。

### **（3）教育研究所連盟等に係る業務の円滑な推進**

- 神奈川県、関東地区、指定都市、全国の各教育研究所連盟等との連携を図った。
- 県教連について、今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染状況により、大会等は中止となったが、幹事会を含めて、運営や対応に係る合意形成を円滑に進めることができた。
- 指定都市共同研究については、政令指定都市20市で調査研究を行い、共同報告書を作成した。

### **（4）横浜国立大学との連携事業**

- アドバイザースタッフ派遣事業、連携講座の開催等の連携事業の推進を図った。
- 教職大学院の客員教授として派遣し、情報に関連した授業を担当したり運営会議に参加したりするとともに、大学院生の研究の指導や長期研究員研修等に携わった。

★アドバイザースタッフ派遣 2件

## 4 情報・視聴覚センター事業

情報・視聴覚センターでは、「教育の情報化」を推進するために市立学校のICTの環境整備、市立学校のコンピュータネットワーク（教育用・校務用・図書館用）の運用管理、教員の授業力向上に向けてICT活用指導力を高めるための研究・研修を行っている。特に今年度は、国のGIGAスクール構想の実現に向けたICT環境の整備及び新型コロナウイルス感染症予防対策対応に係る環境整備（オンライン指導等）を急ピッチで進めた。

また、7区にある視聴覚ライブラリーとの連携を図り、市民団体や学校の教育・学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業の推進を図っている。

### ■重点目標

#### I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業の推進

- 1 教育の情報化に向けた研究の推進
- 2 授業力向上に向けたICT活用指導力を高めるための研修の充実
- 3 市立学校のICT機器の計画的整備  
(GIGAスクール構想による、校内ネットワーク・端末等整備)
- 4 川崎市教育情報ネットワークシステムの活用促進
- 5 校務支援システム・学務システム・SAINS-WEBの活用促進、ネットワーク及び端末の最適化
- 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上
- 7 市立学校インターネット問題に対する取組の推進

#### II 視聴覚センター事業の推進

### ■事業内容（事業概要）

#### I 「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づく事業推進

○市の教育プランや総合計画を考慮し作成され、本年が4年目となる「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」に基づき、ICT機器整備や研修の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の育成、教員の指導力の向上、学校業務の効率化による教員の子供とふれあう時間の確保に取り組んだ。「情報化推進協議会」を中心にPDCAサイクルを循環させることにより、本計画の継続的な見直しを図った。

#### 1 教育の情報化に向けた研究の推進

(1) ICT活用研究会議（長期研究員と研究員による研究）

<研究主題> GIGAスクール構想における段階的なICT活用

— 学びでICTを使えるようになるための初期段階の指導—

○本研究では、GIGAスクール構想により実現される1人1台端末を、学習の中で使えるようになるためには導入初期段階の活用の仕方が重要であると考え、その指導方法を探る実践研究に取り組んだ。半年間継続的に実践し考察した結果、学びでICTを使えるようにするためには、基礎的なICT活用スキル習得のための時間確保が必要であり、それは教科等の中で習得できるものと、教科等外の時間で習得する必要があるものに分類できることが明らかになった。また、児童生徒の実態やICTの特性を考慮した学習の流れに沿って、少しずつ活用の幅を広げていくことなどが効果的であることも明らかにした。また、センター研究報告会では、実戦的な内容を中心に報告をした。

(2) 教育情報化推進モデル校との研究 【旭町小学校・小杉小学校・川崎高等学校附属中学校・今井中学校】

○旭町小学校…GIGAスクール構想による1人1台端末の学習環境を想定した情報モラル等の検証を

行った。検証の結果、学年の発達段階に応じた授業の必要性をあらためて確認することができ、資料も作成した。

- 小杉小学校…タブレットコンピュータを活用し、授業実践や学習環境もとにした実証を行い、効果的・効率的な ICT 環境整備の在り方についての検証を通して、コンピュータ教室機器整備等の資料を作成した。
- 附属中学校…生徒 1 人 1 台のタブレット型端末と全教室への無線 LAN 環境が整備された学習環境の特色を生かし、コロナ渦の状況においても学びを保証するオンライン指導についての研究を進め、資料を作成した。研究の成果は、オンライン指導に係る研修等を通して広く周知した。
- 今井中学校…道徳科の授業を通してコンピュータ教室を活用し GIGA スクール構想に向けた 1 人 1 台端末による ICT 活用について研究を行った。検証結果として、道徳科における ICT の効果的な授業展開等について、令和 2 年 12 月開催の神奈川県放送視聴覚研究協議会川崎大会にて報告を行った。

(3) 情報教育に関する冊子の作成（「5 分でわかる情報教育 Q&A 【第 14 版】」・指導主事研究）

- 本年度から順次実施されている新学習指導要領も考慮し、これまでの内容を充実させるとともに、GIGA スクール構想への対応の視点から「GIGA スクール対応版」とした。新学習指導要領で各教科等の学習の基盤となる資質・能力として示された情報活用能力の育成に向けて「情報教育」に関する項目を充実させるとともに、新しく「GIGA スクールにおける初期段階の指導について」「オンライン指導に係る新しい著作権の考え方について」等を掲載した。

(4) 「かわさき GIGA スクール構想」に関する冊子等の作成をはじめとした教職員等への周知

- 他部署と連携をしながら、「かわさき GIGA スクール構想」に関する教職員向け「リーフレット」や「ハンドブック」を作成した。また、それを用いて研修が行える動画や資料を作成した。また、「保護者向けリーフレット」や Google 合同会社と協力して「プロモーションビデオ」を作成したり、「かわさき GIGA スクール構想」の「Web ページ」を作成したりして、広く保護者や市民にも周知を図った。

## 2 授業力向上に向けた ICT 活用指導力を高めるための研修の充実

- 指導力の向上や確かな学力の育成、校務の標準化・効率化を図るために、効果的な ICT 機器の活用 研修を推進した。

(1) 新校務支援システム研修

- 新校務支援システムの実機を使った研修を実施し、学校での円滑な活用を促した。
- ★実施回 全 28 回 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、回数を分散して開催
  - ・通知表・成績入力研修 12 回（小学校 8 回、中学校 4 回）
  - ・調査書に関わる研修 3 回（中学校 3 回）
  - ・年度更新研修 13 回（小学校 8 回、中学校 4 回、特別支援学校 1 回）

(2) 夏季研修

- 今年度は当初予定されていた東京オリンピック・パラリンピックを考慮し実施計画を縮小
- ★実施 0 回 ※当初予定していた「情報セキュリティ及び情報モラル教育」（横浜国立大学教職大学院との連携講座）は、型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より中止

(3) 情報教育課題研修（小学校プログラミング）

- 小学校プログラミング教育について授業実践や実践的な研修を行っていない学校を対象に実施
- ★参加校 16 校 実践的な研修を行うと同時に、学校で行える研修教材の提供

(4) リクエスト研修

- 学校からの要請に応じ、ICT 授業活用（オンライン指導含む）、情報モラル教育、学校 Web ページ作成・更新等、学校や教員の要請に応じて行う研修を企画実施し、教職員のスキルアップを図った。
- ★訪問研修 45 回

(5) 情報モラル教育に係わる研修の実施

★各学校において情報モラル教育職員研修を年1回以上実施するよう依頼。

○研修講師等については、センターから紹介するとともに、リクエスト（学校訪問）研修を通して教職員等への情報モラル教育研修の充実に取り組んだ。リクエスト研修の際には、研修講師による情報モラル教育の実施だけではなく、各教科等によるカリキュラムへの位置付けについても含めた研修として進めた。

#### (6) 「かわさき GIGA スクール構想」実現に向けた研修

○「かわさき GIGA スクール構想」実現に向け、構想内容や取組例等の周知を目的とした説明会や機器を用いた操作研修等を実施した。

★教職員向け…実施9回 約920名（説明会1回 悉皆研修3回 希望研修5回）

★教育委員会事務局向け…実施3回（Google1回 Benesse2回）

★教育情報化推進モデル校向け…実施9回（Google4回 Benesse5回）

### 3 市立学校 ICT 機器の計画的整備

○新学習指導要領実施に向けた教育環境の充実や教職員の業務の効率化をめざし、川崎市における中・長期的、総合的な「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を基にした整備を進めた。特に今年度は、国の GIGA スクール構想の実現に向けた ICT 環境の整備及び新型コロナウイルス感染症予防対策対応に係る環境整備（オンライン指導等）を急ピッチで進めた。

★主な整備等 ※新しい契約は[新規]

#### (1) [新規] GIGA スクール構想の実現に向けた高速大容量校内無線 LAN 等整備(小・中・高・特支)

※教育環境整備推進室の契約

#### (2) [新規] GIGA スクール構想の実現に向けた外部インターネット回線の増強(小・中・高・特支)

#### (3) [新規] GIGA スクール構想の実現に向けた児童生徒用端末及び教職員用端末等に係る整備

(児童生徒…小・中・特支(小・中学部)、教職員…小・中・高・特支)

※小・中学校…Chromebook 特別支援学校…iPad 高等学校教員…Chromebook

#### (4) [新規] GIGA スクール端末導入支援のため「GIGA スクールサポーター」の配置

#### (5) [新規] 緊急時対応用モバイル Wi-Fi ルータ購入・回線確保

#### (6) [新規] 学校ホームページ等 CMS 化への移行(小・中・高の一部・特支・研究会等)

#### (7) [新規] 総合教育センター内ネットワーク増強・Wi-Fi 化・研修用 GIGA 端末整備・会議システム導入等

#### (8) 校務用コンピュータ機器更新・増加分整備(小・中・高・特支・教委)

#### (9) 小学校コンピュータ等機器等整備(小学校 B グループ 39 校)

#### (10) 総合教育センター及び各拠点ネットワーク等機器更新

#### (11) 中学校プログラミング学習用ロボット整備

#### (12) 田島支援学校桜校等 3 拠点教育用コンピュータ機器整備

#### (13) 高等学校研修用端末整備 (職員室用 KEINS PC)

### 4 川崎市教育情報ネットワークシステムの活用促進

○KEINS-NET、データベース、Web ページの活用促進にむけて次の業務を推進した。

#### (1) 教育情報・学習指導案データベースの充実・活用促進

#### (2) 学校、研究(部)会 Web ページ新規・更新・充実への支援 (テンプレートの拡充)

★個別対応研修の充実(本年度計 18 校実施)により、センターテンプレート使用の学校 Web ページ数は、計 120 校となった。

#### (3) 即時性の高い Web ページ更新システムの調査研究



★より効率的・効果的に Web ページを運用できるコンテンツマネジメントシステム (CMS) の導入を達成し、令和 3 年度からの正式公開に向けてシステムの構築を行った。

#### (4) 川崎市図書館総合システムの有効活用

○年 2 回の図書担当者連絡会でのシステム研修及び、総括学校司書・学校司書への研修を計画的に実施した。

○令和 5 年度更新予定の新図書館システムに向けて、代表者の会議及びヒアリング等を行った。

### 5 校務支援システム・学務システム・<sup>サインス-ウェブ</sup>SAINS-WEB の活用促進、ネットワーク及び端末の最適化

○教職員の働き方改革の観点から、システム等の活用促進に向けて次の業務を推進した。

#### (1) 新校務支援システム及び学務システムの活用促進

○教員の校務の効率化と重要情報保護の観点から校務支援システムや学務システムの円滑な運用を図った。特に、今年度から導入された新校務支援システム (C4th) のについては、操作等と支援するために研修を行ったり、ヘルプデスクと連携をしたりし、活用の促進を図った。

○学務システムの再構築を終え稼働した。また、進学・就職用の調査書変更を行った。

#### (2) 情報共有・発信ツールとしての SAINS-WEB の活用促進を図る。

★他室、他課からの SAINS-WEB 掲載依頼 240 件超 (昨年度 240 件)

○SAINS-WEB の活用促進を図り、教職員への周知方法との一つとして SAINS-WEB が定着した。掲載にあたり、庁内での連携強化を図るために、市イントラネットシステムを活用した。

#### (3) 働き方改革の観点から、複数のネットワークや端末の最適化に向けた技術的な検討を進める。

### 6 教職員の情報モラルの徹底と市立学校の情報セキュリティの向上

○情報流失防止の観点から教職員の情報モラル・情報セキュリティの徹底に取り組んだ。

#### (1) 学習で使用する情報の扱いの整理見直しによる、学校情報セキュリティポリシーの改訂 (GIGA スクール構想でのクラウドサービス利用やアカウント使用に関する考え方等)

○現状のシステムに対応した学校情報セキュリティポリシーの改訂を行った。

○GIGA スクール構想でのクラウドサービス利用等に向けて、情報公開運営審議会に 2 回参加し、諮問を受けた。その結果を受け、市立学校全保護者向けに GIGA スクール構想についての文書を発出した。

○GIGA スクール構想への対応のため「学校情報セキュリティ対策基準」の改定を進めた。

#### (2) 情報流失防止に関する活動 (管理台帳の作成等)

○USB メモリ等の適切な扱いについて、個人情報の管理について徹底することを目的とし各学校に管理台帳作成を依頼し、各学校で実施した。

○庶務課と連携した「情報公開・個人情報保護制度研修会 (学校対象)」を実施し、具体的な内容に基づいた研修とすることで、教職員の情報モラル意識向上に取り組んだ。

#### (3) コンピュータウイルス対策に関する活動

○学校での可搬媒体 (USB メモリ等) 扱いについての周知徹底に努めた。また、学校教育部指導課とともに、市立学校における USB メモリ等可搬媒体に関する台帳の開示請求への対応に取り組んだ。

#### (4) 教育のオンライン利用に伴う情報セキュリティに関するガイドラインの作成

○行政情報課や ICT 推進課に相談の上、ガイドラインやチェックリストを作成した。オンライン指導を行う際の手順や資料とともに、各学校に示した。

### 7 市立学校インターネット問題に対する取組の推進

#### (1) 「川崎市立学校インターネット問題相談窓口」 平日 8:30~20:15 まで電話相談受付

★インターネット問題 年間相談総件数 41 件

(内容別件数)

- ・グループ間トラブル相談 9件
- ・投稿等削除要望 6件
- ・サイト炎上不安相談 4件
- ・ネット被害相談等 4件
- ・ネットモラル対応相談 3件
- ・課金請求対応 3件
- ・ネット依存相談 3件
- ・ゲームトラブル相談 3件
- ・著作権等侵害相談 2件
- ・個人情報等調査相談 2件
- ・情報モラル相談 1件
- ・動画配信対応相談 1件

○インターネット監視

(ネットトラブル発見時は、学校への連絡、プロバイダへの削除依頼をするなどして対応)

(2) ネットトラブルの未然防止、啓発等のためリーフレットの配付

○「川崎市版 保護者向けインターネットガイド」(A3判裏表)(全小1～高3保護者・教職員に配付)として作成した。

(3) 「川崎市立学校インターネット問題連絡協議会」の開催(紙面開催1回 ※1回は中止)

○ネットトラブルについての未然防止、啓発等のためリーフレットの作成・活用に協力。開催される川崎市立学校インターネット問題連絡協議会にて、学校、PTA、県警等と情報交換をし、最新情報を生かした研修やリーフレット作成に取り組んだ。

## II 視聴覚センター事業の推進

市内各区の視聴覚ライブラリーと連携した視聴覚センター事業を推進した。

視聴覚センター機能として、市民団体や学校の教育及び学習活動に役立てるための視聴覚教材の貸出事業を一層推進し、38回を迎えた「わが町かわさき映像創作展」の充実・発展をめざした。

(1) 視聴覚ライブラリーの運営及び視聴覚教材機材の整備、貸出

教育文化会館や各市民館の視聴覚ライブラリーと、総合教育センター内の視聴覚センターを 週2回連絡便で結び、教材等の配送を行った。また、視聴覚機材は、各ライブラリーで管理し、市民団体等へ貸出を行った。

今後の課題はこれまでに貸出している機器類の補修である。

※令和2年度視聴覚教材の貸出状況(センター→ライブラリー)

教材	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
16mmフィルム	本数	0	0	0	0	0	0	3	0	9	13	7	3	35
ビデオ・DVD	本数	0	0	13	1	5	18	8	6	4	13	6	2	76
その他	本数	0	0	1	1	0	6	21	12	10	4	3	10	68
計	本数	0	0	14	2	5	24	32	18	23	30	16	15	179

(2) 平和・人権教育等に関する視聴覚教材の選定・購入

平和教育映像教材等連絡調整会議を11月24日に開催を経て、平和教育・人権教育・環境教育等に関する視聴覚教材を選定し、13作品を購入した。

(3) 第38回わが町かわさき映像創作展の開催

わが町かわさき映像創作展は38回目を迎えた。事前に案内等の広報活動を行い事業の円滑な推進を図った。

○応募期間 令和2年10月13日(火)～令和3年1月7日(木)

○応募総数 22点 (一般応募作品9点・小中学校各研究会推薦作品計13点)

○審査日 令和3年1月22日(金)

○審査員 6名

○表彰 ・グランプリ 1点(賞状・トロフィー) ・金賞 1点(賞状・楯)  
・銀賞 2点(賞状・楯) ・優秀賞 4点(賞状・楯)  
・奨励賞 4点(賞状・メダル)

○表彰式・作品上映会 令和3年2月27日(土) ※新型コロナウイルス感染拡大防止により中止  
賞状等は送付により授与

○入賞作品

グランプリ

「NO Music NO Life」 高津高等学校

金賞

「炭焼きの魅力」 小林 茂

銀賞

「住吉小学校マスコットキャラクター

『すみさく』誕生物語」

2019年度・2020年度化核委員会 児童会担当職員

「いじめをちょっとの勇気で」 有馬小学校 放送委員会

優秀賞

「Idachu highlight then and now」 井田中学校 放送情報部

「とうふ工場見学ツアー」 齋藤 亮介

「手洗い先生」 森谷 一仁

「給食おいしいよ」 下河原小学校4年生

奨励賞

「多摩川を渡る」 加藤 文明

「飼育委員会ビデオ集会」 大島小学校 飼育委員会

「1年生の思い出紹介」 下河原小学校2年生

「シグナル戦隊ミギヨルンジャー

年末特別総集編」 平野 智久

(4) 映像教材の開発と提供

昨年度に引続き、学校で活用してもらうための映像教材を委託開発した。今後も教材の充実を図っていく。

(今年度開発した映像教材)

① かわさきマイスター

**【情報・視聴覚センターの事業を円滑に推進するための関係会議の開催・運営】**

業務の円滑な運営のために次にあげる各種会議等を開催し連絡・調整を行った。

- |                           |                          |
|---------------------------|--------------------------|
| (1) 情報化推進協議会（校長会・学校）      | (6) 校務支援システム定例会          |
| (2) 情報教育学校担当者会（全学校）       | (7) 川崎市立学校インターネット問題連絡協議会 |
| (3) 情報収集活用委員会（研究(部)会）     | (8) 高等学校学務システム担当者会       |
| (4) 保守定例会（コンピュータ機器保守業者）   | (9) 平和教育映像教材等連絡調整会議      |
| (5) ネットワーク定例会（ネットワーク保守業者） | (10) わが町かわさき映像創作展連絡調整会議  |

## 5 特別支援教育センター事業

「かわさき教育プラン」には、共生社会の形成をめざし、一人一人の教育的ニーズに適切に対応する支援教育の推進が記載されている。特別支援教育センターは、「第2期川崎市特別支援教育推進計画」に基づき、各事業を通して川崎市の特別支援教育の振興を図っている。令和2年度の事業概要は次のとおりである。

### 1 「第2期川崎市特別支援教育推進計画」の計画的実施

#### (1) 多様な学びの場における支援の充実

指導課支援教育担当と連携し、新学習指導要領等の行政説明や情報交換、研修等を行ったが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、中止もしくは開催方法を工夫して実施した。

- ・特別支援学級担当者会（対面1回、書面開催3回）
- ・特別支援学校担当者会（対面1回、書面開催2回）
- ・特別支援学校地域連絡会議（対面1回、書面開催1回）
- ・通級指導教室センター的機能担当者会（対面5回、臨時会1回）
- ・特別支援学校センター的機能担当者会（対面3回、書面開催）
- ・特別支援教育事務説明会（中止）

#### (2) 個別の支援計画の作成と活用

一人一人のニーズに応じた連携しやすい個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用に向けて、周知・活用を進めた（学校コンサルテーション、就学相談 等）

#### (3) 障害者差別解消法施行後の取組

①合理的配慮について、保護者・本人からの表明から具体的な実施までの事例収集や発信を行った。また、基礎的環境整備としては、ユニバーサルデザインの視点を意識した授業づくりを進めた。

- ・特別支援教育コーディネーター連絡会議（対面2回、書面開催2回）

②特別支援教育の専門性の向上に資する研修を、外部専門家等を講師に招き研修を計画したが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、2年度はいずれの研修も中止した。

- ・特別支援教育Ⅰ「コーディネーター専門」
- ・特別支援教育Ⅱ「重度の障害のある子どもへの支援」
- ・特別支援教育Ⅲ「きこえや見え方に課題のある子への支援」
- ・リクエスト研修（指導主事を派遣する校内職員研修）

#### (4) 特別支援教育問題研究会議における諸課題の研究協議

特別支援教育に関わる諸課題について、例年報告や意見交換を行い、今後の特別支援教育の推進に向けて協議を行っているが、2年度は中止した。

### 2 特別な教育的ニーズのある子どもの相談や支援の充実

#### (1) 教育相談の実施

##### ①来所相談の概要

- ・来所相談件数と終結件数（表1）

新型コロナウイルス感染防止の観点から、4～5月は教育相談業務を基本的に中止し、6月から徐々に再開したため、2年度の総面接回数は減少した。

(表1) 来所相談件数	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度
継続件数(終結)	776(484)	1,010(544)	958(547)	370(307)
新規件数(終結)	1,317(539)	1,275(783)	1,216(786)	965(452)
計	2,093(1,083)	2,285(1,327)	2,174(1,333)	1,335(759)

・就学相談件数の推移（グラフ1）

初就学に関わる相談件数の増加と合わせて、医療的ケアを必要とする児童や外国につながる児童の増加、保護者の希望の多様化等、困難なケースが増加している。

通常の学級を希望する場合は、元年度と同様に、小学校との相談を先に行う方法を取り入れ、2年度は件数の増加を抑えた。就学相談専門員が2名体制となり、指導主事が幼稚園・保育園等の訪問を実施し、複数場面で幼児の様子を観察することにより、適切な助言を行うことができた。



・相談担当者全員による総面接回数（表2）

緊急事態宣言の影響を受け、2年度の総面接回数は減少した。

(表2) 面接回数	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度
一般的な相談	4,897	5,562	4,702	3,176
就学・入級等手続きに関わる相談	3,369	3,077	2,606	2,302
総面接回数	8,266	8,639	7,308	5,478

・相談待ち日数

相談の申込から初回面接までの待ち日数は、溝口相談室（42.5日）・塚越相談室（31.4日）であった。

②電話相談

- ・教育相談センターの電話相談の項を参照。

(2) 就学相談の実施

①就学説明会（初就学）の実施

・就学説明会（年長児保護者対象6回、年中児保護者対応4回）については、新型コロナウイルス感染防止の観点から、就学相談にかかわる情報については、ホームページで動画配信・資料掲載を行った。

- ・就学相談の進め方については、地域療育センターや保育園、幼稚園等と連携を図って実施した。

②総合教育センター相談室における就学相談

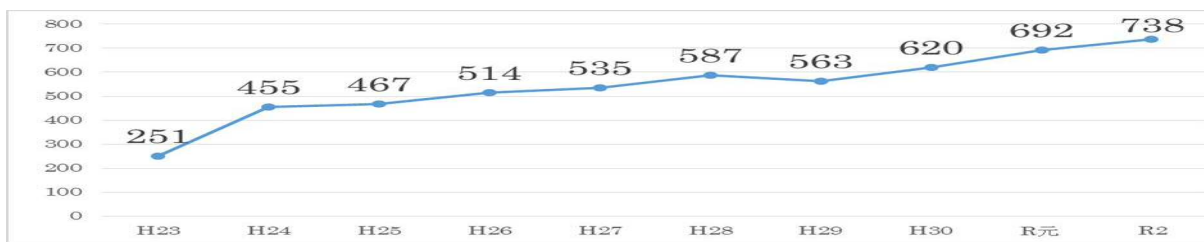
・就学相談にかかわる動画配信等を行った後、相談室（溝口相談室、塚越相談室）で来所による就学相談を実施した。

担当指導主事と心理臨床相談員が、それぞれ保護者との相談と子どもの行動観察を担当し、初回相談から就学に向けての合意形成まで、必要に応じて学校、関係機関等と連携しながら相談を継続

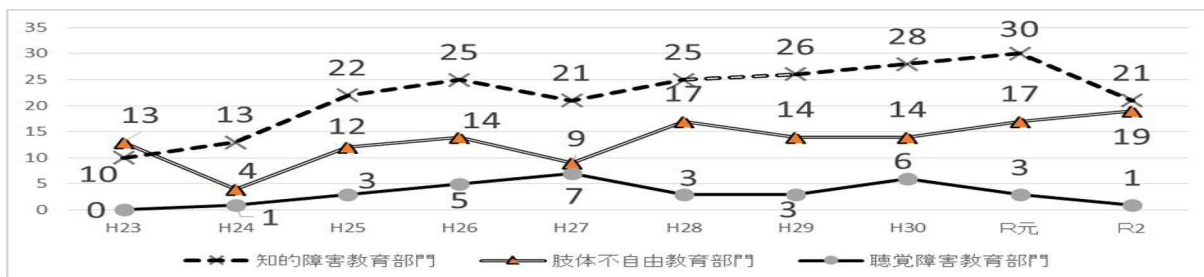
した。元年度は、特別支援学校知的障害教育部門を希望する幼児の行動観察を実施したが、2年度は個別対応に変更した。また、特別支援学校を希望するケース、合意形成が困難なケースについては、相談や行動観察を複数で対応するとともに、療育センターや幼稚園、保育園を訪問し行動観察、小学校での教育相談に指導主事が同行するなど、より丁寧な相談を行った。

### ③川崎市教育支援会議の運営

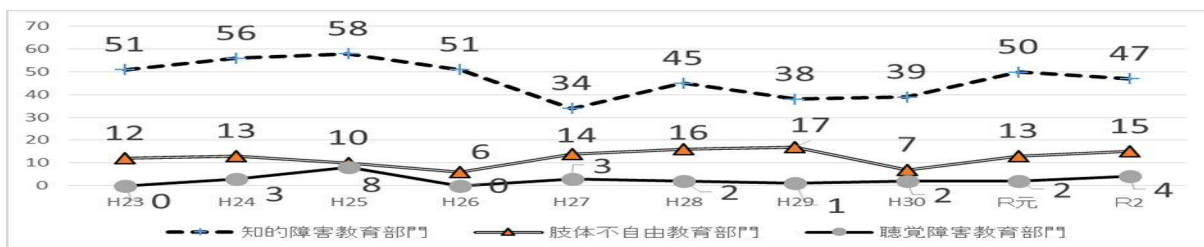
- ・年間4回の教育支援会議、7回の教育支援会議専門部会を開催した。
- ・川崎市教育支援会議審議件数及び進学内訳推移（グラフ2）



- ・特別支援学校小学部の就学の推移（グラフ3）



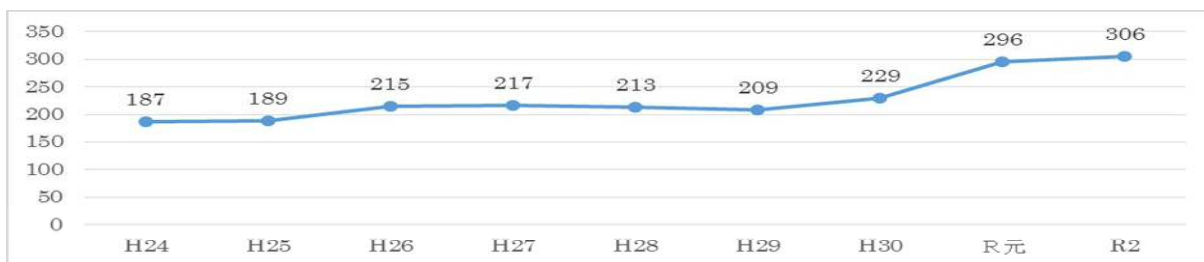
- ・特別支援学校（中学部）の就学の推移（グラフ4）



- ・小学校特別支援学級（グラフ5）



- ・中学校特別支援学級（グラフ6）



知的には平均域（IQ90 以上）であるが、対人面や行動面に困難さが見られる、知的に重度、肢体不自由があり、ADL 面で全面介助など、多様な状態の児童生徒が特別支援学級に入級している。

#### ④中学校・特別支援学校進路相談連絡会

- ・特別支援学校高等部（知的障害教育部門）の入学者選抜について、県教育委員会、川崎市中学校特別支援学校進路連絡会と連携し、事前の進路指導にかかわる資料配布に努めた。

#### ⑤通級指導教室対象児生徒入級審査会の運営（小学生対象 11 回、中学生対象 8 回）

- ・審議件数 373 件（小学生対象 308 件、中学生対象 65 件）であった。

令和 3 年 4 月 1 日現在、通級指導教室の在籍者数は以下の通りである。

小学校：言語通級指導教室 370 名、情緒関連通級指導教室 401 名、難聴通級指導教室 25 名

中学校：情緒関連通級指導教室 172 名、難聴通級指導教室 2 名

#### （3）学校コンサルテーションの充実

- ・来所した児童生徒の相談に関わって、保護者の了解が得られたケースについて学校コンサルテーションを行った。子どもへの理解を深め、より適切な支援・指導を行うために、特別支援教育コーディネーター、担任、養護教諭等と情報交換を行い、学校が個別の指導計画を作成・活用するための助言に努めた。年間件数は延べ 84 件だった。

#### （4）ABC けんさ（Assessment of Basic Skills for Challenged Individuals 職業能力適性評価）

- ・学習課題の設定や進路指導に役立てることをねらいとして、特別支援学校高等部 2 年生の作業能力検査を実施しているが、要請はなかった。

### 3 学校の特別支援教育に関する支援の充実

#### （1）小・中・高等学校における特別支援教育の推進

- ・支援機関の情報共有、進学時の引継の充実のため、個別の指導計画の活用を重点に取り組んだ。個別の指導計画の作成数が増えている。新学習指導要領の改訂に伴い、サポートノートの新書式の書式を提案した。今後、書式の確認、活用方法の検討が必要である。

- ・「令和 2 年度版 特別支援学級担任のためのハンドブック」を更新し、発行した。
- ・「令和 2 年度 コーディネーター必携」「必携書式版」を更新し、SAINS に掲載した。

#### （2）支援人材の活用

- ・巡回相談員：臨床心理士等の心理専門家を、中学校の希望校 42 校（延べ 69 回）派遣した。小学校への派遣については、コロナウイルス感染拡大防止に一斉臨時休業等の影響もあり、希望調査も含めて実施しなかった。
- ・高等学校支援員：要請のあった高等学校へ 23 回派遣した。
- ・特別支援学校地域支援部：A 手帳、1 種 1 級の身体障害者手帳、難聴の児童生徒が在籍する延べ 107 校の小中学校へ計画派遣した。また、要請派遣を 155 回実施した。
- ・通級指導教室（情緒・言語）センター的機能：小中学校に 1,015 回派遣した。

#### （3）特別支援教育サポート事業

- ・特別支援教育サポート事業の推進（NPO 教育活動総合サポートセンターに委託）  
半日単位で、特別支援及び教育相談にかかわるテーマで、それぞれ 4 コマ（計 8 コマ）のサポーター研修を実施した。小・中・高等学校及び特別支援学校に延べ 21,092 回配置した。

#### （4）特別支援学校指導主事訪問

- ・市立特別支援学校 3 校を指導主事が複数で訪問して、学校支援を行った。

#### 4 特別支援教育に関わる研修の充実

##### (1) 必修研修

- ・特別支援教育コーディネーター養成研修（中学校年間8回のうち、資料配布4回、集合2回、中止2。高等学校8回のうち、資料配布2回、集合開催2回、中止4回）
- ・特別支援学級等新担任者研修（4回 延べ588名、資料配布及びレポート提出）
- ・特別支援学級等新担任者2年目研修（2回 延べ146名、資料配布及びレポート提出）
- ・通級指導教室新任者研修（3回） 延べ57名、集合研修、資料配布、e-ラーニング）

##### (2) 希望研修

- ・特別支援教育I コーディネーター専門（4回をコーディネーター養成研修として改編）
- ・特別支援教育II 通級指導教室専門（2回をコーディネーター養成研修として改編）
- ・特別支援教育III「重度の障害がある子への支援」（中止し web 研修の紹介）
- ・特別支援教育IV「聞こえや見え方に課題のある子への支援」（中止し web 研修の紹介）

##### (3) リクエスト研修

- ・元年度38回であったが、2年度は15回実施した。

#### 5 特別支援教育推進に関わる研究の実施

##### (1) 長期研究員と研究員による研究

- ・「特別支援学級における児童生徒の学びにつながる1人1台端末の活用」という研究テーマで、個別の指導計画の目標と単元の学習計画を関連付けて学びの困難さを考え、タブレット端末を適切に活用することで各教科等の目標に迫る学びの実現について研究した。研究報告会はオンラインで開催したが、研究動画の視聴回数は164回で、集会形式には22名が参加した。

##### (2) 指導主事研究

- ・各学校への調査「特別支援学級における教育課程の編成について」を行い、サポートノート（個別の教育支援計画・個別の指導計画）を新学習指導要領に合わせて改訂し、その利用目的や運用を明確にするとともに教育課程編成における課題改善について研究した。研究報告会はオンラインで開催したが、研究報告会には研究動画の視聴回数は162回で、Zoom形式には22名が参加した。



## 6 教育相談センター事業

教育相談センターでは、来所面接及び電話による教育相談、教職員の教育相談に関する研究・研修、不登校児童生徒への支援として市内6カ所のゆうゆう広場の運営及び不登校家庭訪問相談事業を行った。そのほか、スクールカウンセラー配置事業、学校巡回カウンセラー派遣事業による相談活動を行った。また、不登校対策連絡会議、不登校児童生徒・高校中退者のための不登校相談会・進路情報説明会を開催した。令和2年度の各事業の状況は次のとおりである。

### 1 教育相談事業の実施状況

#### (1) 来所面接相談の実施状況

##### ① 来所面接相談件数

表1は令和2年度の来所面接相談（教職員の相談は除く）の状況である。教育相談件数341件のうち269件が令和3年度に継続されることになった。

[表1-1 令和2年度 来所面接相談件数と終結件数]

	相談件数	終結件数	令和3年度への継続件数
継続	239	67	172
新規	102	5	97
合計	341	72	269

[表1-2 表1-1より取り出した不登校・いじめ絡みに関する来所面接相談件数と終結件数（再掲）]

		相談件数	終結件数	令和3年度への継続件数
不登校	継続	175	49	126
	新規	77	2	75
いじめ絡み	継続	6	2	4
	新規	6	0	6

##### ② 来所面接相談総回数

表2は月別、対象別の来所面接相談総回数である。新規に申し込みがあった来所面接相談については14日以内に担当者から連絡し、早期対応に努めている。また、ゆうゆう広場については、その特徴を理解した上で通級してもらうために、不登校児童生徒や保護者を対象に指導主事が事前相談を、カウンセラーが通級相談（通級時の初回相談）・継続相談を実施している。

[表2 月別、対象別 来所面接相談総回数]

		月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
来所 面接 相談	教育 相談 室	親	84	31	212	204	210	221	242	241	253	218	240	248	2404
		子	60	19	134	158	152	154	170	170	175	153	187	189	1721
	ゆう ゆう 広 場	事前相談	6	0	17	12	12	17	36	16	20	17	14	14	181
		通級相談	2	0	3	14	0	7	10	13	17	8	1	11	86
		継続相談	2	0	32	15	4	36	18	15	26	16	2	11	177
	合 計			154	50	398	403	378	435	476	455	491	412	444	473

③ 学校コンサルテーション

学校コンサルテーションとは、センターの職員と学校の教職員が、来所している子どもに対してよりよい支援ができるように話し合うことである。

[表3 月別回数]

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
学校コンサルテーション	0	1	3	6	1	2	3	2	2	2	2	5	29

④ 新規来所面接相談の相談内容

[表4 新規来所面接相談の相談内容の内訳]

	小学生	中学生	高校生	その他	合計	相談件数に占める割合
知能・学業	1	0	1	0	2	1.98%
性格・行動	67	19	2	0	88	87.13%
進路・適性	0	0	0	0	0	0%
身体・神経	2	4	0	0	6	5.94%
その他	2	3	0	0	5	4.95%
合計	72	26	3	0	101	
不登校(再掲)	47	17	2	0	66	65.35%
いじめ絡み(再掲)	3	3	0	0	6	5.94%

(2) 電話による教育相談の実施状況

電話相談は気軽に相談できる手段としてだけでなく、電話相談から来所相談へとつなげる役割も果たしている。今年度も保護者からの相談が多くあった。

① 電話相談件数及びその内容(午前9時～午後6時)

[表5 電話相談 相談件数及びその内容と内訳]

	就学前		小学生		中学生		高校生		その他	合計			合計
	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人	保護者	本人		保護者	本人	他	
知能学業	0	0	35	1	13	0	0	0	4	48	1	4	53
不登校	0	0	46	1	37	2	7	0	10	90	3	10	103
いじめ	1	0	9	2	7	6	1	5	7	18	13	7	38
友人関係	0	0	24	4	3	4	0	5	3	27	13	3	43
性格行動	3	0	26	4	15	12	6	19	16	50	35	16	101
進路適正	32	0	21	1	13	1	11	3	8	77	5	8	90
身体神経	6	0	10	2	1	8	1	1	4	18	11	4	33
教育一般	4	0	118	10	61	20	24	9	18	207	39	18	264
その他	0	0	8	2	5	5	7	2	240	20	9	240	269
合計	46	0	297	27	155	58	57	44	310	555	129	310	994

② 24時間子供SOS電話相談の件数

いじめ問題等、心配なこと、困っていることで悩む子どもや保護者がいつでも相談できるよう、夜間を含めた24時間相談できる体制で取り組んだ。

[表6 24時間子供SOS電話相談 相談件数]

	受付時間	相談者					計
		小学生	中学生	高校生	保護者	その他	
相談 件数	9時～18時	21	41	23	55	81	221
	18時～9時	4	6	4	7	2	23
計		25	47	27	62	83	244
いじめ絡み(再掲)		0	0	1	2	0	3

## 2 研究・研修の状況

### (1) 研究

#### 長期研究員による研究

「学びの中で安心感を生む学級づくり

～友達との関わりを通して不登校を未然に防ぐ教育相談的な関わりを探る～

#### カウンセラー研究員による研究

「カウンセリング・マインドを生かした関係づくり

－生徒の安心感を高める学習指導の工夫－

### (2) 研修

児童支援コーディネーター研修 (835研修)

全10回 (集合2回、双方向オンライン1回、オンライン4回、中止3回) 延べ432名参加

リクエスト研修 (600研修) 5回実施 延べ133名参加

教育相談研修会 全2回 (集合1回、オンライン1回) 延べ332名参加

#### その他

- ① 新規採用教員研修での教育相談研修「子どもとのかかわりで大切にしたいこと」
- ② サポーター研修会「子どもの理解と支援～自己肯定感を高めるための支援プログラム」

## 3 不登校家庭訪問相談事業

家に引きこもりがちな不登校児童生徒の保護者の要請を受けて、家庭に出向き相談活動を行っている。  
令和2年度は2名の家庭訪問相談員で実施した

[表7-1 令和2年度 家庭訪問相談状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問回数	82	29	0	111
訪問以外回数	16	29	0	45
合計	98	58	0	156

[表7-2 令和2年度 実施後の状況]

	小学生	中学生	その他	合計
家庭訪問件数	11	22	0	33
学校復帰者数	0	3	0	3
好ましい変化	3	3	0	6

※ 復帰とは、学校へ週1回程度登校した状態をさす。

#### 4 ゆうゆう広場の活動状況

ゆうゆう広場は6つの広場が設置されている。不登校の児童生徒が市内のどこからも通いやすい環境を整えられている。各ゆうゆう広場には、教育相談員が4名ずつ配置され活動にあたった。令和2年度は、20名のメンタルフレンドが、通級している子どもの活動の援助を週1回の割合で行った。

##### (1) 通級状況

[表8-1 令和2年度 学年別、男女別 通級者数]

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
	男子	0	0	0	7	3	7	17	18	18	27	
女子	0	0	2	2	7	6	17	16	36	39	91	108
合計	0	0	2	9	10	13	34	34	54	66	154	188

[表8-2 令和2年度 行政区別、男女別 通級者数]

	みゆき			さいわい			なかはら			たかつ			たま			あさお			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
川崎	7	10	17	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
幸	3	2	5	4	7	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
中原	0	0	0	7	2	9	15	10	25	1	1	2	0	0	0	0	0	0	36
高津	0	0	0	0	0	0	5	4	9	7	20	27	1	0	1	0	0	0	37
宮前	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3	11	14	0	0	0	1	0	1	17
多摩	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3	3	7	10	17	0	3	3	24
麻生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	15	21	36	37
合計	10	12	22	14	10	24	21	16	37	11	36	47	8	10	18	16	24	40	188

[表8-3 令和2年度 復帰者数]

小学生	中学生	合計
8	34	42

※ 復帰とは、学校へ週1回以上登校した状態をさす。

[表8-4 中学校3年生の進路状況]

公立				私立 (サポート校を含む)			専門学校	就職	フリースクール	家事手伝い	未定	合計
全日制	定時制	通信制	福祉援学校	全日制	定時制	通信制						
9	7	3	0	2	1	38	1	0	0	0	4	65

##### (2) 体験活動

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、ゆうゆう広場全体の取組として例年行われていた、サマーキャンプ、親子ふれあい活動は中止となった。広場ごとに講師を招いた各種の体験活動は7月より行われた。

[表8-5 令和2年度 参加者数]

サマーキャンプ (1泊2日) 中止	—
-------------------	---

[表8-6 令和2年度 参加者数]

親子ふれあい活動 (10月) 中止	—
-------------------	---

## 5 スクールカウンセラー配置事業

市内 52 校の中学校に継続配置しているスクールカウンセラーは、生徒指導担当や養護教諭、特別支援コーディネーターをはじめとする教職員との連携を深めながら相談活動を行った。

[表 9 令和 2 年度 スクールカウンセラーによる相談内容別延べ人数]

①不登校	②いじめ	③暴力行為	④虐待	⑤友人関係	⑥貧困	⑦非行・不良行為
10287	125	31	329	1340	26	250
⑧④⑥を除く 家族関係	⑨教職員との 関係	⑩心身の健康・ 保健	⑪学習・進路	⑫発達障害等	⑬その他の主訴	合計
1440	275	3518	1039	1649	569	20878

・ スクールカウンセラー連絡会議・研修会開催日

4月2日(金) 7月9日(木) 11月17日(火) 2月24日(水) 計4回

→中止

## 6 学校巡回カウンセラー派遣事業

学校巡回カウンセラー7名を教育相談センターへ配置し、市立小学校・特別支援学校・高等学校への派遣を行った。また、市立学校における事件事故に関わる緊急支援としての派遣を行った。

相談件数は増加しており児童生徒及び保護者、学校に対する支援の充実につながっている。

[表 10 令和 2 年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談件数] (緊急支援を含む)

小学校・特別支援学校	中学校	高等学校	計
221	1	204	426

[表 11 令和 2 年度 学校巡回カウンセラーによる年間相談延べ人数]

	保護者	児童生徒	教員	計
小学校	505	60	549	1114
中学校	0	3	1	4
特別支援学校	2	0	2	4
高等学校	71	470	546	1087
計	578	533	1098	2209

## 7 不登校対策連携会議

例年、不登校対策にかかわる施設や関係機関の職員30名が集まり、年2回の不登校対策連携会議を開催していたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度は、第1回が中止、第2回が書面での開催となった。

## 8 不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会

令和2年9月19日(土)高津市民館において、県教育委員会・フリースクール等と連携して「不登校児童・生徒、高校中退者等のための不登校相談会・進路情報説明会」を実施した。

保護者や児童生徒など135名が来場し、129件の個別相談が行われた。

## 7 広報及び刊行物等

### 1 川崎市総合教育センター所報

[発行] 令和2年6月、令和3年1月

[発行部数] 6,000部（A4判）

[主な記事] 第1号「【巻頭言】小学校・小学部の新しい学習要領全面实施」

「カリキュラムセンター 事業・業務」

「情報・視聴覚センター 事業・業務」

「【特集】GIGAスクール構想の実現に向けて」

「特別支援教育センター 事業・業務」

「教育相談センター 事業・業務」

「令和2年度 教育委員会研究推進校一覧」

第2号「【巻頭言】わくわく、ワイワイ、楽しい学びを進める」

「【特集】情報・視聴覚センター かわさきGIGAスクール構想」

「カリキュラムセンター 学習評価について 学習評価の観点

各教科における評価の基本構造」

「特別支援教育センター サポートノートが新しくなります！！」

「教育相談センター 子どもに寄り添った支援のために」

### 2 総合教育センター要覧 令和2年度

[発行] 令和2年12月

[発行部数] 500部（A4判）

[主な内容] 設立趣旨、沿革、特徴、組織・機構、事業内容

### 3 その他の刊行物

No	種 別	発行月	規格	ページ数	部 数
1	事業報告書	3月	A4	48	600
2	小学校「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成Ⅰ」	3月	A4	50	冊子9,000 CD4,200
3	中学校「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成Ⅰ」	3月	A4	36	9,370
4	小・中学校「自主・自立」「共生・協働」を目指した教育課程編成のための資料Ⅵ 総則	3月	A4	58	7,310

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
5	みんなで学ぼう みんなで語ろう (川崎市立高校定時制案内)	10月	A 4	8	2,600
6	川崎市立高等学校教育実践の記録	3月	A 4	96	656
7	夢を育てよう	5月	A 4	6	12,000
8	研究紀要 第28号	4月	A 4	195	450
9	研修案内	4月	A 4	73	500
10	研修一覧	4月	B 2	1	300
11	副読本かわさき2020	3月	A 4	190	13,900
12	初任者研修の手引き	4月	A 4	65	520
13	はじめて教員になった人のために	4月	A 4	130	850
14	初任者研修 研修ノート	4月	A 4	60	900
15	初任者研修 宿泊研修のしおり	7月	新型コロナの影響で発行なし		
16	中堅教諭等資質向上研修 研修の手引き	4月	A 4	30	650
17	中堅教諭等資質向上研修 研修ノート	4月	A 4	22	650
18	川崎市立小学校学習状況調査報告書	9月	A 4	105	430
19	川崎市立中学校学習状況調査報告書	2月	A 4	292	200
20	保健体育学習指導の手引き	3月	新型コロナの影響で発行なし		
21	スクールカウンセラー配置事業報告書	5月	A 4	104	135
22	川崎市適応指導教室 ゆうゆう広場の活動報告	5月	A 4	20	300
23	特別支援学校担任のためのハンドブック	3月	A 4	44	200
24	5分でわかる情報教育Q&A	3月	A 4	82	1,500

No	種 別	発行月	規格	ページ 数	部 数
25	川崎市立学校における教育の情報化推進計画	3月	A 4	73	800
26	小学校における学習評価の考え方及び指導要録記入の手引き	9月	A 4	40	3,000

#### 4 資料の収集・整備

収集	研究・研修用教育図書
	市内各学校の要覧、案内及び校内研究報告書
	市内小・中・高校の各研究会発行の紀要等
整備	市内小・中・高校の教科書



## 令和2年度 事業報告書

令和3年11月

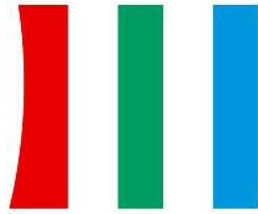
編集・発行 川崎市総合教育センター

所在地 川崎市高津区溝口6丁目9番3号

TEL 044-844-3600

FAX 044-844-3604

E-Mail KE130201@to.keins.city.kawasaki.jp



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市